

聖徒の道

1974年2月20日発行（毎月1日・20日発行） 第18巻2号
昭和49年12月18日第二種郵便物認可

聖徒の道

2¹⁹⁷⁴



聖徒の道

1974 2月号

も く じ

- 49 大管長会メッセージ／神権……………N・エルドン・タナー
55 ホーム・ティーチング憲章
57 あの方は神の人かもしれません…………レオン・R・
ハートショーン
59 ヘブライの風俗習慣……………シドニー・B・
スペリー
64 アブラハムの契約と祝福
67 アブラハムの生涯における旅と
出来事
69 少年をいやしたスミス大管長
70 金 版……………マーガレット・C・
リチャーズ
キャロル・C・
マドセン
71 十二使徒から子どもたちへ……………マービン・J・
アシュトン
72 小さなお友だちへ……………セオドア・M・
バートン
74 リサ子ちゃんは学びます……………メアリー・エレン・
ジョリー
75 おもちゃばこ
76 きりの中の声
78 若人のページ／心の清さ……………ボーン・J・
フェザーストーン
80 質疑応答
81 生ける予言者とは……………A・セオドア・
タトル
84 啓示の岩……………ジョセフ・
アンダーソン
87 汝らの子供たちを見よ……………ボイド・K・
パッカー
91 教会の真の強さ……………ゴードン・B・
ヒンクレー
95 ローカル・ニュース

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプラー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアンズ（内務伝達部長）
ジョン・E・カー（配送・翻訳部長）
ドイル・L・グリーン（教会誌編集主幹）
ダニエル・H・ラドロウ（教育資料担当主幹）

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木 沼 修 一

ローカル編集

高 木 まりゑ

聖徒の道 2月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-8-10
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5-10-25
定 価 年間予約 1,300円 1部 130円
海外予約 1,800円

今月の表紙

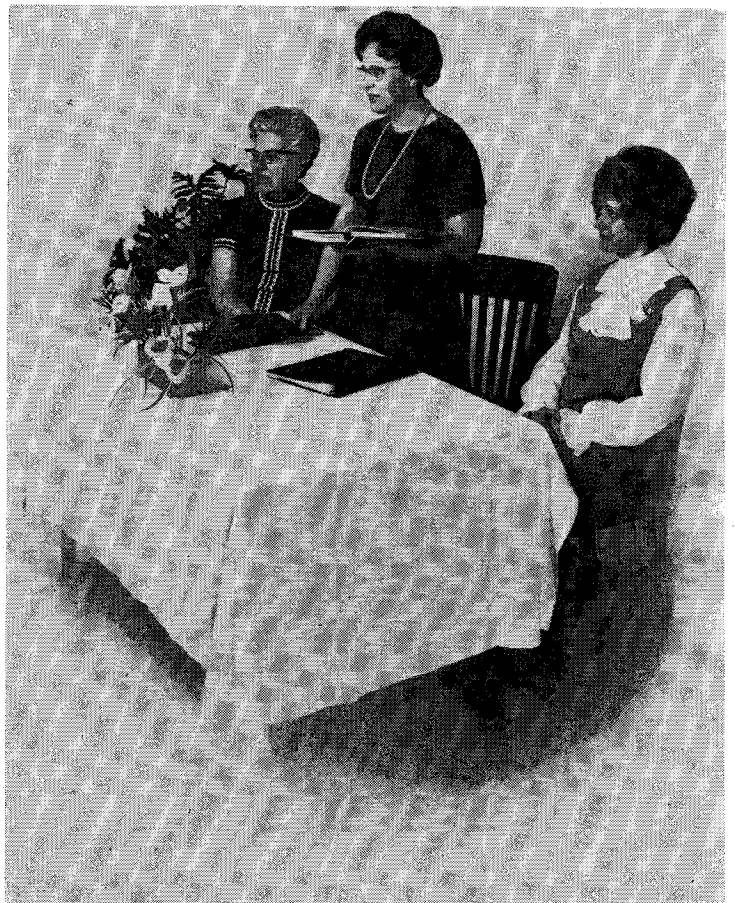
今月の表紙は、主が約束された生まれたばかりの正当の世継ぎイサクを胸に抱き、主に感謝するアブラハムを描いたものである。このアブラハムにより多くの人々がもたらされ、祝福が全地の民に及ぶこととなったのである。画家はウィリアム・ウィタカー。

神 権

第一副管長

N・エルドン・タナー

「神権の権能によってのみ、福音の儀式が受け入れられ、執り行なわれ得る。神権の権能なしにはだれも、バプテスマを施したり、聖霊の賜物を授けたり、聖任したり、職務を執り行なったりすることはできないし、教会のいかなる管理の職に就くこともできない。女性の組織においても、役員や教師の地位に就く人々は皆、神権の権能によって召され、任命されるのである。」



末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるということは、偉大な特権であり、祝福であり、また同時に責任でもある。この教会では、神権と神の権威の下に、様々な業の指示が出され、また執り行なわれている。この権能により、また、この権能の下に、教会のあらゆる儀式は執り行なわれ、そして、受け入れられるのである。そしてまた、この神権と権能を保持するということは、会員であることにも増して、一層偉大な特権であり、祝福であり、そして責任である。私はここで、この神聖な権能について書いてみたいと思う。

私に寄せられた次のような質問に答えることが、この場合、神権について説明するための、最善の方法ではないかと思う。

1. 神権とは何か。
2. この教会が、神権すなわち神から与えられた権能を持つ唯一の教会である、と主張する根拠はどこにあるか。
3. この教会が、教会の業務を執り行なうためには神権が必要であると主張しているのはなぜか。
4. だれが神権を持っているのか。
5. 神権を持つ者の責任は何か。
6. 神権の祝福とは何か。

私は、この末日に関係する神権について説明したいと思っている。だが、ブリガム・ヤングの説明にあるように、神権は律法であり、この律法によって数々の世界が過去、現在、未来にわたって存在し、人々の居住が定められている、ということ、私たちはまず認識しなければならない。神権は、数々の世界に周期運動を与え、日を、週を、月を、年を、そして季節を定めているのである。

ブリガム・ヤングは更に次のように言明している。「神権とは、完璧な統治制度であり、律法と儀式の完全な制度である。私たちは、この律法と儀式によって備えをなし、次々に門を通り、次々に歩哨のわきを過ぎ、やがて、私たちの父である神の御許にたどり着くことができるのである。」 (*Journal of Discourses* 「説教集」〔英文〕 Vol. 2, P. 139)

神権はアダムに与えられ、代々受け継がれて、アブラハムに伝えられた。アブラハムは偉大な大祭司であったメルケゼ



デクから神権を受けたが、「この神権は、すべての世に神の教会に連綿として在り。而して生命の始めなく齡の終りなくあるなり。

主はまたアロンとその子孫の末に至るまで一つの神権を確認したまい、この神権もまた、神の最も聖き神権に等しきかの神権と共に連綿として代々いつまでも在るものなり。

而してこの大神権は福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。

この故に、これを以て礼式を執り行う時に神の能力顯る。

而して、この神権を以てする礼式と神権の権能なくしては、肉身を持てる人間に神の能力顯ることなし。」(教義と聖約84:17-21)

では次に、神権と末日における神権の回復について話を進め、この教会こそ神権、すなわち神の権能を持つ唯一の教会であると主張している理由について説明しよう。

この教会の信仰箇条第5条に、次のように明確に宣言されている。

「われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手によりて其任に召されねばならぬことを信ず。」

この宣言は、パウロがヘブル人に送った手紙にある宣言と全く一致している。「かつ、だれもこの榮譽ある務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。」(ヘブル5:4)

この教会において、顕著で重要な特色のひとつは、その神権にある。ジョセフ・F・スミス大管長は、この神権を非常に明確に定義している。

「神権とは、人に委任された神の能力であって、それ以上のものでも、それ以下のものでもない。この神権により、人は、天父と御子と聖霊との御名によって、人の救いのために地上で正当に働くことができるのである。これは神権を持っているように見せかけているのでもないし、死んだ過去の世代から借りているのでもない。この神権は、私たちが住んでいるこの時代に、天から、すなわち直接全能の神の御前から遣わされた導きと恵みを施す天使と霊によって与えられた神権なのである。」(『福音の教義』第1巻P.172)

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリがモルモン經の翻

訳に従事していたとき、バプテスマのヨハネがふたりの前に姿を現わした。ヨハネは、自分が、大神権の鍵を持つ古代の使徒、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの指示の下に働いていることを告げ、ジョセフとオリバーに次のような言葉をもってアロン神権を授けた。

「汝ら、われと同じ業に働く僕らよ。救世主の御名によりて、われ汝らにアロンの神権を授く。こは天使の導きと恵み、悔改めの福音、罪を赦すために水に沈むるバプテスマなどの鍵を握る神権にして、まことにレビの子孫が主の御前に再び義しきに適いて捧物を捧ぐる時まで、この世より決して再び取り去らるることなし。」(教義と聖約13)

ジョセフ・スミスの記録によれば、後にペテロ、ヤコブ、ヨハネが現われて、ジョセフとオリバーを、イエス・キリストの使徒として、また特別の証人として聖任し、キリストの王国を導く鍵と、末日の時満ちたる福音の神権時代とをふたりに託した。(教義と聖約27:12, 13参照)

末日聖徒イエス・キリスト教会の設立にあたって、主は次のような啓示をジョセフ・スミスに与えられた。

「見よ、汝らの中に誌さる一つの記録あらん。その記録に於て、父なる神の御ところと汝らの主イエス・キリストの恩恵とにより汝は聖見者、翻訳者、予言者、イエス・キリストの使徒、教会の長老と称せられん。

また汝は聖霊に感じて教会の基を築き、それを最も聖き信仰に築き建てん。」(教義と聖約21:1, 2)

神権の権能は、決して勝手に自分の権利として主張できる筋合いのものではなく、権能を持つ人を通じて、神より委譲されなければならないものである。今日、数々の教会で混乱が見られる理由のひとつは、人が主からの正当な委任を受けていないのに、この権能を持っている振りをしている、ということにある。何人といえども、この神権の権能を勝手に私する権利はない。これは個人が勝手に、自分は王や議会の代表者であると主張したり、大統領の代理であると主張する権利がないのと同じである。事実、だれか、正当な権限を受けずに、そのような代表者として書類に署名するようなことがあれば、その人は文書偽造の罪で告発され、法によって裁かれることになるだろう。

もし世の人々がこの真理を理解し、受け入れるならば、ジ

ヨセフ・スミスに対すると同様に、主の教会を組織立てる権能がこれまで主により与えられ、委譲されてきたことにたやすく同意することであろう。しかし、決して忘れてはならないことがある。それは、神が地上の人々に真実の神権を与えるときには、決まって偽りの神権が存在し、真実の神権の権能を装っているということである。信仰と祈りと聖きみたまの証により、私たちは真理を識別することができる。

では、3番目の質問に移ろう。教会の業務を執り行う際、なぜ神権が必要か、という質問である。それには、神権の権能によってのみ、福音の儀式が受け入れられ、執り行なわれ得る、と答えておけば充分であろう。神権の権能なしにはだれも、バプテスマを施したり、聖霊の賜を受けたり、聖任したり、業務を執り行なったりすることはできないし、教会のいかなる管理の職に就くこともできない。女性の組織においても、役員や教師の地位に就く人々は皆、神権の権能によって召され、任命されるのである。

どの神権時代をとってみても、必ず、神権を持つ指導者がいた。そして、この時満ちたる神権時代に神権は回復され、現在その神権は、末日聖徒イエス・キリスト教会が保持しているのである。このように、この教会は福音を説き、儀式を執り行なう完全な権能を受けている。神権の源が教会にあるのは、論を待たない。そして、人の持つ神権は委任された権能であり、この権能がなければ、私たちの働きは、完全に無に帰してしまうのである。

神権の必要な理由を更に知りたければ、信仰箇条の第9条を読むとよい。

「われらは、すべて神のこれまでに啓示したまいしこと、すべて今啓示したもうことを信じ、なお今より後、神の王国につきて多くの偉大にして重要なことを啓示したもうことを信ず。」

私たちは、神がそのみこころを僕である予言者に啓示されることを知っている。また、主にとっても、神権を持つ代理人を置くことが必要である。主はこの代理人を通じて御自分のみこころを示され、この代理人は、主に代わって教会員に対する主の代弁者として仕えることができるのである。このような理由で、神の目的を解釈し、実践に移すために、神権を持つことが必要なのである。

4 番目の質問は、だれが神権を持っているのか、という質問である。これには、男性会員で資格があつて聖任される者は皆、神権を持つことができるし、任じられる職で働くことができる、と答えておこう。しかしながら、最近教会内では次のように考える傾向が出て来ているように思える。少年が12歳になったら、自動的にアロン神権が与えられ、執事に聖任される。また、年齢に応じて神権の職を次々に昇進し、やがて18歳になると自動的に長老に聖任される、というような考え方である。

このような考え方は、教会の教えにも、神権の秩序にもそぐわない。どんな男性であろうと、神権を受け、あるいは昇進するためには、バプテスマの水に入ったときに交わした誓約に従って生活していなければならないし、あらゆる面でふさわしくなければならない。

神権は、人が受けることのできる最も偉大な賜のひとつであり、祝福のひとつである。親、教師、監督、ステーク部長は皆、神権を受けようとする候補者に、神権が何たるかを教えなければならない。また管理の職にある人々は、聖任の前に、その候補者と心行くまで面接し、一方その青年は、自分があらゆる面でふさわしく、また神権が自分にとってどんな意味を持つのか、神権の責任とは何か、を充分認識していることを立証しなければならない。更に候補者は、神権を持つ人の集まりにおいて承認を受けなければならない。

確かに、神が、ある人に神の御名によって語り、行なう権能を授けられるときには、その人が執事であろうと、教師であろうと、また祭司や長老、七十人や大祭司であろうと、その職には関係なく、その人がふさわしい代理人であることを神は望んでおられるのである。

18歳になった青年に権能が与えられる様子を想像してみるとよい。その青年は、与えられた権能によって、教え、バプテスマを施し、更に他の青年を執事に、教師に、祭司に、また長老に聖任できるのであり、その業は、教会のもっと高い地位にいる人々が行なったものと同じ効果を持つのである。何という偉大な責任が、特権が、そして榮譽が、この青年に与えられることであろうか。再び言うが、この偉大な祝福を受けるにふさわしく生活することの大切さは、また世に対する模範となることの大切さは、いくら強調してもし過ぎるこ

「神権の祝福は、老若男女を問わず、すべての人々にもたらされる。神権を通して、福音の儀式を受け、執り行なうのである。その中には、バプテスマ、確認、聖餐、永遠の結び固めや、死者のための業を含むあらゆる神殿の儀式などがある。また神権の権能により、信仰と天父のみこころに応じて、病人はいやされ、足なえは歩き出し、目しいは見、耳しいは聞くことができるようになるのである。神権の祝福は、悲しむ人々に慰めを与え、打ちひしがれた人々に力を与える。」



とはない。

質

問の5番と6番目は、神権の責任と祝福に関するものである。神権を持つ者は、自分が召された場合いかなる職をも受け、また管理役員の与えたいかなる責任にも応ずるはずである。そのようにしてこそ、神権の召しを全力を尽くして遂行し、同胞のために奉仕の業に携わることができるのである。主の御言葉を思い起こしていただきたい。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは『みたま』により聖められてその肉体再新さる。」

主は更に、次のような偉大な約束を与えられた。

「……この故に、わが父のもてるすべては彼に与えらるべし。」(教義と聖約84：33—38)

この祝福は皆、神権の召しを全力を尽くして遂行するかどうかにかかっている。

また、私たちは皆、教義と聖約の神権に関する章第84章と第107章を読み、研究し、理解すべきである。

私の父は、神権を持つ者の数々の責任を説明してくれたが、私はその重要性を決して忘れることはないであろう。私たち家族は農場に住み、いつも農作業に追われていたが、父は私に神権の業務をまず第一に果たすようにと強調した。私は次のような言葉の信念のもとに育てられた。それは「まず神の国と義とを求めるならば、自分のためになる、他のあらゆるものは、すべて添えて与えられるであろう」というものである。私は自分の経験と観察を通して、これが正しいことを知った。更に私の父は、家庭においても、私が自分の神権の職と召しを果たすことができるよう、色々な機会を与えてくれた。そして病人を祝福したり、他にもふさわしい奉仕の業を行なうことができたのである。

人は、自分が接する人々にどんな影響を与えているのか、また、そのような人々の人生にどれほどの影響を及ぼしているのか、知るすべはない。神権者として、私たちは、高潔の模範を示さなければならない。また、あらゆることに正直であり、不作法と不敬を避け、私たちの隣人に、また会う人々に、私たちが清潔で高貴な生活を送っていることを示さなければならない。戒めを守りなさい。

私たちは、家庭に平安と調和をもたらすように努め、この

影響力を世界のすみずみにまで及ぼさなければならない。教会の標準を完全に維持し、あらゆる時を捕えて、他の人々に教会の標準を守るよう勧めるのは、神権者の責任である。私たちは、自分を愛するように私たちの隣り人を愛さなければならないし、困難に遭遇している人々には、援助の手を差しのべなければならない。

神権の祝福は、老若男女を問わず、すべての人々にもたらされる。神権を通して、福音の儀式を受け、執り行なうのである。その中には、バプテスマ、確認、聖餐、永遠の結び固めや、死者のための業を含むあらゆる神殿の儀式などがある。また神権の権能により、信仰と天父のみこころに応じて、病人はいやされ、足なえは歩き出し、目しいは見、耳しいは聞くことができるようになるのである。神権の祝福は、悲しむ人々に慰めを与え、打ちひしがれた人々に力を与える。

誠に、もし私たちが、今述べたことの意味を完全に理解することができるなら、恐らくオリバー・カウドリが、バプテスマのヨハネの出現を書き記した際に表現したのと同じ気持ちを感じるのである。このとき、バプテスマのヨハネは、アロン神権を回復し、地上における神の王国の設立に着手したのである。

「突如永遠の唯中より来るが如く、贖い主の御声はわれらに平安を告げたまえり。帳りの二つに別ると同時に神の使い栄光に包まれて天降り、熱心に求めたる音ずれと悔改めの福音の鍵とをわれらに渡したまいたり。何たる悦び何たる驚異何たる驚きぞ。世の人の悩み迷いし時、幾百万の人々盲人の如く壁を手探りせる時、すべての人々あまねく大衆として不確実なるものを頼みにしたる時、烈日の下に於ける如くに否それ以上、当時万象の上に光を注ぎし五月の日の輝きにも勝りてわれらの眼は見ぬ、われらの耳は聞きぬ。その時、天使の御声柔くあれども心の底まで貫きぬ。その御言に曰く、『われは汝らと同じ業に働く僕なり』と。この御声にことごとく怖れは去りぬ。われら耳傾けぬ。われら仰ぎ見ぬ。われら嘆美しぬ。こは天使の御声なりき、栄光より来る御声、いと高き神より来る音ずれなりき。その声を聞きて、われら悦びぬ。同時に神の愛は、われらの心に火を点じ、われら全能の神の示現に包まれぬ。何の疑う余地ありや、何所にもなし。不確実は消え失せたり。疑いは沈みてもはや浮ぶことな

し。同時に虚構と詐欺はとこしえに逃げ去りぬ。」（『教会歴史記録』〔英文〕第1巻、P.43）

J・ルーベン・クラーク副管長は、神権について語った際、次のように所見を述べた。たとどこか私たちの社会で市民政治が突然崩壊することがあったとしても、必要な市民の同意さえ得られれば、この教会の組織は社会を治めることができる。教会の秩序を保つことを務めとする教師は、警察隊として、働くことができるであろう。監督には、法廷を開く権能が与えられている。高等評議員会とステーク部長もまた第一審と控訴審の法廷を開くことができる。また、判決に異議があれば、大管長会上告することもできる。クラーク副管長は更に次のように述べている。人民の統治のために必要な、あらゆる規則や規定を設ける権限は大管長に帰属している。

明らかに神権組織は完全で非の打ち所がなく、主が降臨してこの地を治められるときに用いられるように備えられていることは明白である。

完全な組織と神権の権能について述べた顕著な例としては、ハロルド・B・リー大管長が御自分の経験について述べたときのものが良い例である。リー大管長は、1935年に教会の福祉計画を組織するために召され、政府からの援助を受けようとする風潮を変え、教会が自力で貧困な人々に援助を与えることができるように導いたのである。リー大管長は、どのような組織を設立したらよいのか、主に導きを求めて熱烈に祈ったとき、次のような明確な答えを受けた、と語っている。「教会員の必要を満たすために、何ら新しい組織は必要としない。ただ神権を働かせるだけでよい。他に何もこれに代わるものは必要としない。」この答えは、直ちに実行に移された。その後、福祉計画は更に進展し、今では、神能の権能の不朽の業績として、世界に範を垂れている。

今、私たちは、神権に対する忠誠と献身を誓い、この地上における主の代弁者である指導者に従っていく決心をしようではないか。私たちがそうするならば、私たちと私たちの家族の平安と幸福に寄与するだけでなく、同胞に対する奉仕を通じて主に仕え、主の家で永遠に住むために備えをすることになるのである。

ホーム・ティーチング憲章

十二使徒評議員会会員のブルース・R・マッコンキー長老は、最近開かれた十二使徒会地区代表セミナーの席上、ホーム・ティーチングの重要性を強調し、「ホーム・ティーチング憲章」を紹介した。

マッコンキー長老は、法律家としての豊富な経験から適確な言葉で、以下の10項目を述べている。

1. 救いを得るには、福音に従って生活しなければならない。イエス・キリストとその永遠の律法を知らずに救いはない。我々は信じ従う度合に応じて救いを受ける。
2. 福音は、神から人間に啓示されるものであって、神の御声、天使の導きと恵みを施す業を通じて、また聖霊の賜によってなされる。
3. 子供を教育する義務は、両親にある。福音を教える場は家庭であり、両親が子供に教える。

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。またあなたはこれをあなたの手につけてしるしとし、あなたの目の間に置いて覚えとし、またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」(申命6:6-9)

4. 家庭に完全な状態をもたらし、両親が子供を正しく教育し得るよう、教会は、教会員ならびに全世界の人々に対して、福音を教え、救いのメッセージを伝える。



—両親は子供たちを教えます—

パウロは言った。「そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。」(1コリント1:21)

ジョセフ・スミスもこのように語っている。「義務に関してあらゆる事が語られてきたが、最も偉大にして重要な務めは、福音を教えることである。」

5. 神権は、人類の救いに関わるあらゆる事柄を行なうために、地上の人間に委譲された神の権威権能である。神権を持つ者は、神の代理人であり、彼らを通じて教会が運営され、福音の儀式が執行される。

「而してこの大神権は福音を授け、また王国の奥義の鍵、すなわち神の知識の鍵を保つものなり。」(教義と聖約84:19)

6. 神権定員会は、以下の事柄について定員会会員を訓練すべきものとする。

- a. 家族の教育、家庭管理
- b. 教会の運営および福音の儀式の執行
- c. 永遠の生命を得る方法

定員会会長は、会員と「共に会議を開いて彼らにその「義務を教」え、天父の王国において永遠の生命を得ることができるよう、導かなければならない。(教義と聖約107:85)

7. 前項に従って訓練を受けたアロン神権者およびメルケゼデク神権者は、以下を行なう。すなわち、「説き、教え、釈き、勧め」ること。「常に教会員を守護し、各会員の家庭を訪れて、彼らが声を挙げてみよそかにても祈り

を為し、すべて家庭の務めにいそむよう勧めをなす」こと。共にいて教会員を強めること。

「教会員の中に邪曲なきよう、互いの間に頑固なることのなきよう、また虚言、蔭口、悪口などもなきよう注意」すること。「すべての会員にその義務をつくし、……キリストに来る様すべての人々を勧誘」すること。

事実上彼らは、与えられた責任を果たすために、主の御手の中にあって働く道具とならなければならない。モロナイは古代の記録を閉じるにあたり、その義務についてこう語った。「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば、決して神の能力と権能とを否定することができない。もしあなたが神の恵みを受けキリストにより完全な者となって、神の能力と権能とを否定せぬならば、神の恩恵を蒙りキリストにより聖められ、御父の誓約の中にあること、すなわちキリストが血を流したもうことによりあなたたちは罪の赦しを受けて汚れを除かれ聖くなる。」(モロナイ10:32, 33)

8. ホーム・ティーチャーは、神の権能を持った神の代表者である。従ってホーム・ティーチングは、教会を見守るために神が定めら

れた方法である。神権定員会はホーム・ティーチングを通して、家族を完き者にするように会員を指導し強める。また父親、家族、個人は、義務を果たし、戒めを守り、やがては救いに到達できるように導きを受ける。ホーム・ティーチングが正しく行なわれるならば、王国のあらゆる会員の上に福音の恵みがもたらされる。これが主の方法である。

9. 神権コーリレーションの目的は主が御自らの教会に委ねられた御業を、主の方法により組織し遂行してゆくことである。あらゆる神権組織および補助組織、プログラムは、神権コーリレーションの枠内で運営されるべきである。そこには管理運営上、3つの原則がある。

- a. 現在においても永遠にわたっても、家庭という組織以上に大切な組織はない。主が命じられたすべての事柄を行ない、教会のプログラムすべてを運営する第一の責任は、この家庭と個人の手に委ねられている。
- b. そのような観点から、教会および教会内のあらゆる組織は、家庭と個人がこの世にあっては平和を得、次の世にあっては永遠の生命を得るために数々の事柄を行なうが、これらは家庭と個人にとって援助機関となる。
- c. ホーム・ティーチャーは、家族と個人が教会および教会にあるあらゆる組織が差し出す援助にあずかるための手段である。

10. ホーム・ティーチャーは、主がそのみこころを家族と個人に伝えるため定められた経路にあって、欠かせない存在である。こ

の系路が途中で切れていたり、正しい系統でなく補助組織や特定の目的で設けられた委員会等を通じて福音につける権能を行使し伝達しようとする、主の民は安全な組織が完全に運営されたときにもたらされる祝福を受けることができない。

マッコンキー長老はこの10項目にわたるホーム・ティーチングの規約の結びとして、この規約に従っておらず、従ってホーム・ティーチングをふさわしい方法で行っていない長老定員会会長と、96名の長老たちについて述べた。

彼らはこのような話し合いをしていた。「ホーム・ティーチングをしましたか」と会長が尋ねた。すると長老たちは、「はい、私たちは一軒残らず訪問しました」と答えた。これは双方共誤りを犯している。

マッコンキー長老は語っている。「この事例から、私たちはある基本的な原則を心に留めていなければならないことがわかる。

ホーム・ティーチングは教会を見守るために神が定められた方法である。

従って次のような結論に達する。すなわち、第一に考えなければならないのは人々のことであり、プログラムではない。また訪問する先の人々が人生を完きものとし、今も永世にもわたって福音の完全な祝福を受けるまでは、その務めを『終えた』とは言えない。

神権指導者はこの『ホーム・ティーチング憲章』の各項目をステーキ部においてよく教えるようにして欲しい。これが行なわれると、ほかの人々も自分たちの取るべき道を知ることができ、知らないために同じ過ちを犯すことがないであろう。」



あの方は神の人かも しれません

レオン・R・ハートショーン

1836年4月、十二使徒評議員会のパーレー・P・プラットはカナダのトロントへ行く召しを受けた。彼はそこで完き福音を聞く用意のある人々を見出すであろうと言われ、「彼らはあなたを受け入れるであろう。またあなたは彼らの中に教会を組織し、それより教会は周囲の地方に広まり、多くの者が真理を知り、喜びに満たされるであろう。そしてこの伝道により、完き福音はやがて英国に広まり、この国に大いなる業が成し遂げられるであろう」と告げられた。

彼はカナダへの旅の途中でひとりの人物に会い、旅費にと10ドルを渡され、トロントのジョン・テイラーへの紹介状をもらった。その晩テイラー家に着いたときのことを彼はこう説明してい

る。

「テイラー夫人は私を暖かく迎え、機械工場の仕事に忙しいテイラー氏を呼びに行った。私は彼らにこの町へ来たわけを伝えた。

翌朝、私はまず土地の牧師たちを正式に訪問して、自己紹介をし、用向きを伝えた。ところが私は全く歓迎されず、どの家でもどの人々にも、福音について話すのを断わられた。私は自分の頭に宣言されたトロントについての予言を忘れたわけではないが、先行きに見込みがないように思えた。しかし私は少しも恐れず、保安官に郡役所の使用と、市場の集会室の使用を願い出た。だが願いは入れられなかった。これ以上何ができるだろうか？ 私の努力にもかかわらず何の効果もなかった。

そこで私は町はずれの松林へ行き、ひざまずいて主を呼び求め、努力が不成功に終わったこと、道を開く力のないことを訴えた。また同時に、イエスの御名によって、しもべがこの地での使命を達成できるよう良い道を開きたまえと願った。

それから、私は立ち上がり再び町に入った。そして何の働きもできなかったその地から去ろうと、ジョン・テイラー氏の家で荷物をとりまとめ始めた。多少の好奇心と気づかいからテイラー氏が2、3のことを尋ね、数分間手間取っているときに、テイラー夫人の知人のウォルトンという女性が訪ねて来て、隣の部屋でテイラー夫人と話し始めた。聞くとともに聞いていると次のようなことだった。

『ウォルトンさん、よくいらっしやいました。きょうは、福音伝道のために主からこの町に遣わされたと言う方が、合衆国からいらしてらんですよ。そのお仕事のために牧師さんたちやいろいろなお役人に便宜をお願いしてもかなえられず、ここを出ようとしていらっしやるんです。あの方は神の人かもしれませんわ。お別れするのが残念です。』

婦人が言った。『まあ、今駆りたてられるような気持でお宅にやってきた意味が、それでわかりますわ。洗濯で忙しい最中で、歩くのもおっくうなほど疲れていたのですが、出かけようという強い気持がしたんです。そのときは町の反対側の姉の所を訪ねようと思ったのですが、お宅の前を通るとみたまが中に入りなさいと命じました。でも私は帰りに寄ろうと考えました。けれどもみたまは「今行け」と言うのです。それでお宅に寄ったのですが、本当に感謝しています。その方に、私の家において下さいとお伝え下さいな。私はやもめですが、余分の部屋もベッドも、食事もしっかりあります。お望みでしたら私の家に下宿してもよろしいし、説教する大きい部屋がふた部屋ありますわ。今晚息子のジョンをお迎えに来させます。私はお話を伺うのに親戚や友だちを集めます。そうお話しして下さいね。だって私、そのお方が私たちのためになるお話を聞かせに主が送って下さった人だと、みたまによって感じるんです。』

その夜、私は彼女の家で、大勢の聞き手の間に心安らいで席を取った。人々は客間の大きな仕事台のまわりに腰かけ、話に深い関心を示した。……

その関心を抱く人たちとの話合いが夜遅くまで続いた後、私たちは部屋に戻って休んだ。翌日私は、ウォルトン夫人に、同じくやもめで大きな不幸に見舞われている彼女の友人を訪ねてくれるよう頼まれた。その人は全盲で目に炎症があり、何カ月も激しい苦痛に悩み、4人の子供を抱えて生活は困窮

していた。夫を2年前にコレラで亡くし、視力を失うまでは教師として家計を維持してきたが、それ以来メソジスト教会に頼って生活し、母子とも市の生活保護を受けていた。ウォルトン夫人は12歳の娘を私の道案内によこした。かわいそうな盲目のやもめとよるべのない子供たちは、うす暗いアパートの一室にいた。目に苦痛を与えないように光線をささぎっていたために部屋がうす暗かったのである。私は彼女に自分の使命を話し、彼女はそれを信じた。私はイエス・キリストの御名により彼女の頭に手を置き、彼女に向かって言った。『まさにこのときより、汝の眼はいやされるべし』と。彼女は包帯をほどき、窓を開けて光を入れ、自分で服を着、見える目で歩き、その夜ウォルトン姉妹の家で開かれた集会に、ほかの人々と同じようによく見える目で参加した。』

ウォルトン姉妹はプラット長老に、伝道のために家を提供しようと申し出、下宿を勧めた。そして、ついに伝道が開始された。プラット長老はウォルトン夫人の家で集会を始め、その後まもなく、テイラー氏と宗教関係の友人たちで主催している研究会に紹介された。

彼の説教を聞いて、彼らは喜んだ。プラット長老は、彼らに神への信仰とイエス・キリストへの信仰を教え、罪を悔い改め、罪の赦しのためキリストの埋葬にならってバプテスマを受けよと呼びかけ、彼ら自身が信じている事柄と共に、按手礼による聖霊を約束した。しかしプラット長老がジョセフ・スミスとモルモン経について話した事柄は非常に多くの人を当惑させ、そのうち幾人かはモルモン経の研究や、福音を説き儀式を執行する神よりの権能を持つというプラット長老の主張を調べてみることを拒んだ。

ジョン・テイラーの一生を特徴づける高邁な独立心と霊の勇敢さが示されたのは、この重大な場であった。彼の演説は次のような主旨であった。

「我々がこの場にあるのは、明らかに真理を求めんがためである。これまで我々は他宗派の信条および教義を充分研究し、その誤りを証明してきた。なぜモルモニズムの研究を恐れなければならないのか。このプラット氏は、我々の見解と一致する多くの教義を教えて下さった。我々は自分の信念のために多くのことを犠牲にし、よく忍耐してきた。我々は、地上に真の教会があるなら、使いを我々に遣わしたまえと神に祈ってきた。プラット氏は特別な状況の下で我々の所へ来られた。そこで、彼のことを斟酌すべきひとつの点がある。彼は古代の使徒と同様、旅の袋も財布も持たずに来られた。また我々はひとりとして聖句や論理により彼の言う教義を論破できない。私は彼の言う教義と主張する権能について調べたい。もし友人の幾人かが、いっしょに加わってくれるならば非常にうれしい。しかし、私はひとりでもやるつもりだ。もし彼の宗教が真実であるとわかったならば、結果がたとえどうなろうとも私はそれを受け入れよう。またもし誤りであったならば、私はそれを暴露しよう。」

このあと、ジョン・テイラーはモルモニズムを熱心に研究し始めた。彼はプラット長老が行なった8つの説教を書き留め、聖句と比較した。またモルモン経と教義と聖約が神よりの真正な書物であるかどうか、証拠を調べた。彼は言っている。「私は3週間これを専らの仕事とし、パーレー兄弟の行く先々についてまわった。」徹底的な調査の結果、得られたのは確信だった。そして1836年5月9日、テイラー夫妻はバプテスマを受けた。*

レオン・R・ハートショーン、
*Exceptional Stories from the
Lives of Our Apostles* P.192—201

*注：ジョン・テイラーは1838年12月19日、聖任され使徒となり、1880年10月、末日聖徒イエス・キリスト教会の第3代大管長となった



ヘブライの 風俗習慣

ブリガム・ヤング大学
「旧約聖書の言語と文学」担当

シドニー・B・スペリー教授

聖書は実は東洋の書物である。何十世紀も前に東洋の人が、主として東洋の人々のために書いたものである。

確かに、新約聖書はヨーロッパの言語、すなわち西洋の言語であるギリシャ語で書かれ、今日に伝わっている。しかし、イエスも使徒も東洋の人で、東洋の言語、アラム語を話していた。聖書を正しく理解しようと思えば、聖書の言語について多少知らなければならないし、また聖書を書いた人々の風俗習慣もある程度理解していなければならない。

人々が西洋からパレスチナにどんどん移り住んでおり、パレスチナは急速に変化している。しかし今でもずっと内部では、アブラハムの時代とほとんど変わらない生活を目にすることができる。田舎の少年や村の少女は、今でも、ずっと昔の祖先の時代から伝えられてきた型の衣服を着ている。農耕生活は、ほとんど変わっていないし、挨拶の仕方も聖書の時代とほとんど同じである。

パレスチナの中でも昔のままの所へ

「ヘブライ人の家族においては、父親が家族内のもめごとを裁き、その言葉に異議を唱えることはできなかった。」

行けば、そのほか数々の伝統や慣習を今でも観察することができる。例えば手ぶりであるが、西洋人は、人を呼ぶとき、手のひらを上に向けて人差し指を曲げる。ところがパレスチナの人々は、手のひらを下に向けて、4本の指を自分の方へ曲げる。私たち西洋人は否定的な見解を表わすとき、首を左右に振る。他方パレスチナの人々は、頭をうしろへ振る。また神聖な場所や家に入るとき、私たちは敬意を表わすしるしとして脱帽する。しかし、昔のままのパレスチナの人々は靴をぬぐ。

西洋の羊飼いは、羊の群れをうしろから追って行く。しかし東洋の羊飼いは、羊の群れの先頭を歩いて率いて行く。私はパレスチナに在る間に、羊が狭い道を一列になって飼主のあとをついてゆくのを、何度も何度も見かけた。そんなとき、次の言葉をいく度思い出したことだろうか。「……彼は自分の羊の名をよんで……羊の先頭に立って行く。羊はその声を知っているの、彼について行くのである。」(ヨハネ10:3, 4)

西洋では、若い人が結婚するとすぐに自分の家を持つとする。しかしパレスチナでは、新郎の家族と一緒に生活する。アブラハムの僕がリベカを故郷へ連れて帰ったとき、「イサクは、母サラの天幕にリベカを連れて行き、リベカをめとって妻とし……」(欽定訳創世24:67) たことに注目していた。このようにしてリベカは、アブラハム一族に属する者となった。

近代および古代のパレスチナの話し方と、私たちの話し方を比べると興味

深い。思想においても話し方においても、東洋人は芸術家である。他方西洋人は建築家となぞらえることができよう。話すとき、東洋人は極めて真にせまった表現をする。しかしその細部については、必ずしも正確でない。一方西洋人は細かな点まで正確に、図面的ように描きがちである。主がからし種のことを「地上のどんな種よりも小さい」と言い、からしの木のことを、「どんな野菜よりも大きい」(マルコ4:31, 32) となると言われたのは、東洋人として語られたのであった。植物に少し詳しい人ならだれでも、イエスの話されたからし種が、どんな種よりも小さいわけではないこと、またからしの木がどんな野菜よりも大きいともいえないことを知っているだろう。

イスラエル人は、アブラハムの時代からひとつの国民としてパレスチナに定着するまで、遊牧民もしくは半遊牧民として生活していた。そして後にパレスチナに定着してからも、彼らはそれまでの生活の特色を数多く残している。

砂漠における今日のアラブの生活から、古代ヘブライの習慣を幾つも再現することができる。私は砂漠でアラブの家長からもてなしを受けたことがあったが、そのとき古代の族長について聖書に記されているある物語を思い出した。

古代のヘブライの家族は、本来族長制度で治められていた。この族長制度を表わすヘブライ語は、ベタブ(父の家)の意である。父親は家族を管理する至上の権威を持っていた。子供たち

が成長して、息子が結婚すれば、息子もその子供も父親の監督下に入る。族長にふたり以上の妻があるか、めかけ、あるいはつかえめに子供がある場合、この子供たちは全部他の子供たちと同じ扱いを受けた。従って、4人の母親から生まれたヤコブの息子たちは、皆同じ子供の資格を持って受け入れられたのであった。僕や従者は言うに及ばず、血縁関係のない者も誓いを立てれば家族に加わることができた。

昔は、父親の権威には生死をも支配する力があつた。例えば、ユダは娘のタマルがみだらな行為をしたとき、タマルを死に定めたのであった。

ヘブライ人の家族は、家でもあつた。家族の起こりは、家を建てることであつた。家という言葉は非常に幅広く、国民全体を指すこと(ヤコブの家、イスラエルの家)や民の一部(ユダの家、ヨセフの家)を指すこともあつた。

ヘブライ人の家族においては、父親が家族内のもめごとを裁き、その言葉に異議を唱えることはできなかった。子供たちもその他の家族も全員従順に従い、父親を救うように求められた。息子は呼ばれなければ父親の前にすわることもしなかったし、許しを得なければ、意見を述べることもできなかった。

父親が死ぬと、その座は長子が継いだ。そして、年老いた者も含めて家族全体の父親となるのであった。その地位に着くにふさわしくないことを証明されない限り、前任者である父親のすべての権利、家族の忠誠、特権を受け





た。しかし、父親が長子以外の継承者を指定した例が幾つか、聖書に出ている。例えば、ルベンがふさわしくないことがわかったので、ヨセフがヤコブの後を継いで全支族の族長となったしソロモンもダビデの後継ぎに指名されている。

一部の専門家は、古代ヘブライ人の結婚が、法律の定める制度であって、宗教上の制度ではなかったと言っている。確かにヘブライ人の中にはそのような結婚が行なわれていたかも知れない。しかし私たち末日聖徒は、偉大な族長たちの間で宗教が非常に大きな役割を果たしていたことも知っている。

ヘブライ人の家族の中で、息子が結婚しようとするとき、その妻は両親を選んだ。この風習は今も聖書にゆかりのある地域に残っている。ヘブライ人の間では、子供たちは普通非常に若いうちに結婚する。私の恩師のひとりでヘブライの風俗習慣に詳しいルートヴィック・ケーラー博士は、普通のヘブライ人は19歳で父親となり、38歳で孫が生まれ、57歳で曾孫が生まれるとよく言っていた。しかし、時にはもっと年齢がいったから結婚するヘブライ人もいた。イサクの場合が、そうであった。リベカを妻にしたとき40歳であった。それでも、アブラハムは、所有のすべてを管理させていた年長の僕に、靈感によってリベカを選ばせている。

若い男性が女性を選んで妻にしようとするとき、その男性は、モハル、すなわち一定額のお金を花嫁の父親、または花嫁自身に払うしきたりがあった。これは離婚した場合、妻を守るも

アブラハムがサラの埋葬地を入手するくだりは、アラブ人が贈物を受けていたのではなくて、古代における取引きの慣習の一場面だったのである。

のとなるのであった。結婚のときに支払われるこのお金は、女性が家畜の世話をしたり、田畑で働いたりして尽くしてきた貴重な労働の損失を償うという意味があったのかも知れない。

新約聖書の時代に、ユダヤ人は普通三つの段階を踏んで結婚していた。初めに、いいなづけの段階、これはふたりがまだ幼い子供の頃に行なわれた。その組合せは、双方の両親が決めてもよかったし、専門の仲人がしてもよかった。当事者同志が一度も会ったことがないこともまれではなかった。このことは今日の若い人々にとって驚きかも知れない。しかし、結婚は非常に厳粛なものであって、決して人間の感情に任せたり、軽率に決めるべきものではない、と考えられていた。第2に婚約の段階に入る。この段階で、女性が拒まない限りいいなづけの関係が確認され、不動のものとなる。いったん受け入れると、ユダヤ人はこの婚約を絶対解消できない拘束力のあるものと見なした。ふたりは1年間、夫であり妻であると見なされたが、結婚そのものの状態に入ったわけではなかった。婚約の関係を終わらせるには、離婚による以外に道はなかった。第3に、婚約の年が過ぎると、結婚の段階に入っていくのであった。

ヘブライ人の女性の間では、結婚しないことは恥であると考えられていた。予言者イザヤは、未婚の女性がひとりの男性に「わたしたちの恥を取り除いてください」（イザヤ4：1）と言う言葉を引用したとき、この感情を心に描いていたのだった。

新婚のヘブライ人の夫婦は、子供が生まれることを、特に男の子が生まれることを心待ちにした。詩篇の作者が歌った次の言葉に注目していただきたい。「見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり、胎の実報いの賜物である。若い時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。」（欽定訳詩篇 127：3-5）

不妊の女たちは、神の呪いを受けていると思って悲しんだ。「ラケルは自分がヤコブに子を産まないのを知った時、姉（レア）をねたんでヤコブに言った、『わたしに子どもをください。さもないと、わたしは死にます』。」（創世30：1）

東洋の慣習のもうひとつの特徴は取引きである。ある日の夜、エルサレムで店を持っている私の親しい友人が言った。取引きに全く通じていないアメリカ人相手に、品物の何倍もの値段をふっかけて商売しても、全然おもしろくない、というのである。この友人はもうけることを歓迎はするが、それよりもむしろアメリカ人との取引きそのものの方がおもしろいのである。

商人が請求する最初の値段が、決して最後の決め値にならないことを示すため、私が経験したふたつの話をしよう。私はパレスチナ特有の衣裳を買いに、あるエルサレムの店に入っていた。品物を選ぶと、アラブ人の店員がある値段をドルの金額で言った。約10分やりとりして、私は元の値段の3分の1の金額を払ってその品物を手に入れた、店を出た。

もうひとつの経験というのはこうである。アルジェーの港で船に乗っていると、身寄りのないようなアラブ人がサングラスを幾つも肩にかけて甲板をやってきた。その中にひとつ美しいドイツ製のあったので、私はあまり高くなければそれを買うことに決めた。そこで私たちは熱の入った取引きをした。30分してとうとう私は美しいレザーのケースつきで、この品を元の半値以下で手に入れた。このアラブ人も得をしたに違いない。そうでなければ私に売りはしなかっただろう。

アブラハムが、サラを葬るほら穴をエフロンの畑ごと買う場面は、実は古代の取引きの場面であった。西洋人はこのことを知ると、驚くに違いない。アブラハムがヘテの人々に、私はエフロンに「じゅうぶんな代価」を払いますと言うと、エフロンが進み出て言った、「いいえ、わが主よ、お聞きなさい。わたしはあの畑をあなたにさしあげます。またその中にあるほら穴もさしあげます。わたしの民の人々の前でそれをさしあげます。あなたの死人を葬りなさい。」（創世23：9-11）

大概の読者は、ただで畑とほら穴を提供するエフロンは非常に親切な気前のいい人だと考える。しかし実際には彼の言葉は、お客に対する丁寧なふるまいだったのである。結局アブラハムが、エフロンの呈示した400シケルを支払ったことに、注目していただきたい。（創世23：13-16）

このように、聖書を理解し、味わうためには、古代近東の風俗習慣を知ることが必要である。

アブラハムの契約と祝福

「神の友」(ヤコブ 2:23) 「信仰の人」(ガラテヤ 3:8, 9)

アブラハムの生涯には、完全な信仰の姿がうかがえる。その信仰のゆえに、アブラハムは、交わした契約に伴う数々の祝福を享受する資格を得た。サラとアブラハムは、主が正当な世嗣ぎを恵み、これらの約束を成就して下さることを信じていた(創世15:1-6)。ふたりは辛抱強く耐え、やがてイサクを恵まれた。そして「おびただしい」子孫を得ることになった(創世21:1-3; ヘブル11:11, 12)。アブラハムは、将来の子孫のためのゆずりの地を自分が生きている間に与えられることなく、ただ寄留者としてそこに住んだ(ヘブル11:8-10, 13-16)。しかしキリストの贖罪によって復活があり、この地がゆずりとして得られることを知って、アブラハムは喜んだ(霊感訳創世15:9-13; ヨハネ 8:56)。生得権を持つ息子イサクを機性として捧げるように、神はアブラハムに命じられた(創世22:1-19)。それはアブラハムに

とって、完全かつ純粋な信仰を示す機会となった(ヤコブ 2:21, 22)。そしてこの従順のゆえに「義」とされた(教義と聖約132:36)。この厳しい試みを通して、アブラハムは完全な信仰を示したのみならず(ヘブル11:17-19)、自らの知恵をもってキリストの将来の贖いについて知った(モルモン経ヤコブ 4:5)のである。「アブラハムはすべてを受けたり、彼は何事を受くるも啓示と誠命とわが言とにより、と主は言う。而して、彼は最高の栄に進むを得てその王座に坐せり」(教義と聖約132:29)。アブラハムの世嗣となるにふさわしい者、すなわち神の「宝」はみな、「その親子を機性となすを命ぜられたるアブラハムの如くにすべし、必ず懲しめられ試みられざるべからず」(教義と聖約101:4)。

	参 照 聖 句			解 説	アブラハムの祝福と末日聖徒
	アブラハム	イ サ ク	ヤ コ ブ (イスラエル)		
I 約束の地の祝福 「……汝の末なる子孫、わが声に聴き従う時はとこしえに所有としてこれに与えられん。」 (アブラハム 2:6)	創世12:7; 13:15; 15:9-14 (霊感訳創世15:7, 18:17; 8:24:7)	創世26:3, 4	創世28:4, 13:48; 4	ヤコブは、息子ヨセフを祝福した折、子孫の一部は決して滅びることがないであろうという約束(アルマ46:24, 25)をもって、子孫にもひとつの地が与えられることを予言した(創世49:22-26, イテル13:2, 7, 8)。ヨセフの子孫はアメリカ大陸に導かれた(1ニモフフェイス 2:20)。主に連れ来られた者のためにその地は神聖にされており(IIニモフフェイス 6:7; 10:10, 11; IIIニモフフェイス 13:イテル2:7)。その人々は主に仕える限りそこに住める(イテル2:12)。	合衆国ミズーリ州ジャクソン郡は、「約束の地」の中心地、すなわち新エルサレムの所在地に指定されている(教義と聖約52:42; 57:1-3; 84:2-5)。ユダはアブラハムに与えられた地に集まる(教義と聖約109:64)。地球はやがて忠実な者にゆずりとして与えられ(教義と聖約45:58; 56:20; 63:20)、日の栄の状態になる(教義と聖約88:18-20; 130:6-9)。
II 子孫の祝福 A. 「われ汝を大いなる国民となし……」(アブラハム 2:9) B. 「……あなたは多くの国民の父となるであろう。」(創世 17:4-6, 16)	創世12:2; 18:18 アブラハム 1:2			アブラハムの息子としてハガルから生まれたイシマエルを通じても、「多くの人々」すなわち「大いなる国民」の誕生することが約束された(創世16:10; 17:20; 21:13; 教義と聖約132:34)。アブラハムの妻ケトラは6人の息子を産んだ。その内のひとりミデアンとその子孫は特に大勢であることが述べられている(創世25:1-4; 出エジプト3:1; 教義と聖約84:6)。現在一般に、アブラハム国民の大部分はイシマエルの子孫から成っているとされている。またミデアンの子孫もその一部である。	「……ついにイスラエルの軍は極めて大いなるものとなるべし」(教義と聖約 105:26, 31, 32)
C. 「……われ汝を殖し、また汝の後に来る汝のすえを殖してこれらのもの「天の星、また浜べの砂」の如くにせん。……」(アブラハム 3:14)	創世13:16; 15:5; 17:2; 22:11	創世24:60; 26:4, 24	創世28:3, 14:35; 11:48; 4		アブラハムはその子孫について「この世に在りてもまたこの世の外に在りても、空の星の如く数多くして絶ゆること」がないという約束を受けた。(教義と聖約132:30)

D. 「……王たちもあなたから出るであらう。」(創世17:6, 16)				創世35:11	王位すなわち「立法者」としての権限は、ユダとその子孫に約束された(創世49:9, 10)。ユダを通じてアブラハムの血統から生まれるはずの偉大な王は、イエス・キリスト(マタイ1:1, 17; ルカ1:68-72), 「イスラエルの王」(ヨハネ1:49)であった。
Ⅲ 神権の祝福					
A. 「……われ汝をとりて、汝にわが名、すなわち汝の父の神権を被らしむべし。……」(アブラハム1:18)					
B. 「……汝は汝の子孫にとり祝福の基となりて、汝の子孫は万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行かん。」(アブラハム2:9)					
C. 「……この(神権の)権能は汝によりて継続し、また汝のすえ(すなわち文字通りのすえ、汝の体より出でたるすえ)によりて……」(アブラハム2:11)	創世17:7, 19; アブラハム1:3, 4	創世17:19; 21:12			「……汝らはすなわち代々父の血統によりて神権を有つ者たちなり。何となれば、汝らは肉に由りて正當なる世つぎ……たればなり」(教義と聖約86:8, 9)
D. 「われは汝を祝する者を祝し、汝を唱う者を唱わん。……」(アブラハム2:11)	創世12:3				
E. 「……汝が導きと教えを施す業によりて、わが名はとこしえにこの世に知らるべし。……」(アブラハム1:19)	創世17:7, 8	創世26:24		創世28:13	神と福音についての真実の知識は、アブラハムと、そのすえと呼ばれる人々を通じて、世の人々にかつて知らされたし、また現在も伝えられている。(出エジプト3:6, 13—15; 4:5; マタイ22:32; ヨハネ8:56—58; I ニーファイ19:10; 教義と聖約136:21)
Ⅳ 救いと昇栄の祝福					
A. 「われ万国の民を汝の名によりて祝福せん。この福音を受くる者は皆汝の名によりて呼ばれ、汝のすえに数えられ……」(アブラハム2:10)					「汝らはイスラエルの子らにしてまたアブラハムのすえの子ら……なればなり」(教義と聖約103:17, モーサヤ5:7 も参照)

B. 「……汝の名をすべての国民の 中に大いならしめ……」(アブ ラハム2:9)	創世 12:2			1833年4月3日、カートランド神殿にエライヤスが現われ、 「アブラハムの福音の神権の時代」を委した(教義と聖約 110:12)。このエライヤスはノアであった(Conference Report「大会報告」, ジョセフ・フィールディング・スミ ス, 1960年4月, [英文] P.72参照)。エライヤスは、ア ダム(モーセ5:58; 6:51, 52)と彼自身(モーセ8:19 20, 23, 24)と、アブラハム以前の他の族長が所有してい た完全な福音の祝福を回復した。しかしアブラハムは、彼 の名によって語られる祝福を持つという光栄を得ている。 なぜなら、アブラハムの業とそのすえの業によって、神の 御名と福音が「とこしえにこの世に」知られるからである (アブラハム1:19)。	「……忠実にして……二つの神権を得、… …召を全力を尽して遂行する者たちは、… …モーセの息子たちとなり、アロンの息子 たちとなり、アブラハムの子孫…となる」 (教義と聖約84:33, 34) 「……汝がきてアブラハムの業を為せ。汝 らわが律法に入れ、さらば救われるべし」 (教義と聖約132:32) 予言者ジョセフ・スミスの手になる回復の 業を通じて、アブラハムの子孫は「この世 の普族」に祝福をもたらすという約束が成 就されつつある。(教義と聖約124:58)
C. 「……この福音を受ける者は皆 ……立ち上りて汝をその父とし て祝福すればなり。」(アブラハ ム2:10, イザヤ51:2参照)				幾世代にもわたって、多くの人々は、アブラハムと血縁関 係に入ることによってその祝福が約束されると主張してき た。しかし聖典には次のように誌されている。「イスラエ ルから出た者が全部イスラエルなのではなく、また、アブ ラハムの子孫だからといって、その全部が子であるのでは ない」(ローマ9:6, 7)。「信仰による者こそアブラハム の子である」(ガラテヤ3:7)。なぜなら、福音の約束は 義によってのみ得られるからである(ローマ4:13)。ア ブラハムの子である者は、「アブラハムのわざをする」(ヨ ハネ8:39)。	「……忠実にして……二つの神権を得、… …召を全力を尽して遂行する者たちは、… …モーセの息子たちとなり、アロンの息子 たちとなり、アブラハムの子孫…となる」 (教義と聖約84:33, 34) 「……汝がきてアブラハムの業を為せ。汝 らわが律法に入れ、さらば救われるべし」 (教義と聖約132:32) 予言者ジョセフ・スミスの手になる回復の 業を通じて、アブラハムの子孫は「この世 の普族」に祝福をもたらすという約束が成 就されつつある。(教義と聖約124:58)
D. 「……彼が後の子ら……に命じ て主の道を守らせ、正義と公道 とを行わせるために……」(創 世18:19)	創世 17:9 (靈感訳創世 17:4-7, 11, 12)	ローマ 9:13		イエス・キリストの贖いに関する福音のメッセージは、地 上の全人類にとって、ただひとつの最も大切な祝福である (「予言者ジョセフ・スミスの教え」[英文] P.121; I コ リント15:22)。アブラハムのすえ(イスラエル)は、地 上の民の間に散らされた(申命4:27; 28:64; レビ26: 33)。それは「アブラハムの受けた祝福が……異邦人に及 ぶためであり……」(ガラテヤ3:14)、諸国民に授けられ るためである(Iニローファ15:16-18, モルモン経ヤコ ブ5章も参照)。	「……忠実にして……二つの神権を得、… …召を全力を尽して遂行する者たちは、… …モーセの息子たちとなり、アロンの息子 たちとなり、アブラハムの子孫…となる」 (教義と聖約84:33, 34) 「……汝がきてアブラハムの業を為せ。汝 らわが律法に入れ、さらば救われるべし」 (教義と聖約132:32) 予言者ジョセフ・スミスの手になる回復の 業を通じて、アブラハムの子孫は「この世 の普族」に祝福をもたらすという約束が成 就されつつある。(教義と聖約124:58)
E. 「……汝のすえによりて世界の 普族ことごとく祝福を得ん。… …」(アブラハム2:11)	創世 12:3; 18:18; 22: 18	創世26:4		予言者たちは、福音の回復(Iニローファ122:4-9; IIIニ ローファ120:27; 21:1-7)と、誓約の更新(教義と聖約 1:17, 22, 23; 申命4:31; エレミヤ31:31-34; エゼ キエル37:24-28)を先見した。さらに、この業を進める 上でイスラエルが働き手となることも先見した(IIニロー ファ13:4-21)。イスラエルの家の集合は、回復の業の一 部をなすものである(申命30:1-5; Iニローファ14:7; 15:12-16)。	「……忠実にして……二つの神権を得、… …召を全力を尽して遂行する者たちは、… …モーセの息子たちとなり、アロンの息子 たちとなり、アブラハムの子孫…となる」 (教義と聖約84:33, 34) 「……汝がきてアブラハムの業を為せ。汝 らわが律法に入れ、さらば救われるべし」 (教義と聖約132:32) 予言者ジョセフ・スミスの手になる回復の 業を通じて、アブラハムの子孫は「この世 の普族」に祝福をもたらすという約束が成 就されつつある。(教義と聖約124:58)
F. 「われ……汝を限りなく恵み、 ……福音の祝福にして救いの祝 福、すなわち永遠の生命の祝福 を得んと言う約束を汝に与うれ ばなり。」(アブラハム2:9, 11)	創世 12:2			日の栄(神殿)結婚をする資格を得、そ の誓約に入り、「約束の聖きみたま」によ って結び固められる人々は、昇栄を得る。 そしてその子孫は続き、また彼らは神々と なる。(教義と聖約132:19, 20, 教義と 聖約132:29-31も参照)	「……忠実にして……二つの神権を得、… …召を全力を尽して遂行する者たちは、… …モーセの息子たちとなり、アロンの息子 たちとなり、アブラハムの子孫…となる」 (教義と聖約84:33, 34) 「……汝がきてアブラハムの業を為せ。汝 らわが律法に入れ、さらば救われるべし」 (教義と聖約132:32) 予言者ジョセフ・スミスの手になる回復の 業を通じて、アブラハムの子孫は「この世 の普族」に祝福をもたらすという約束が成 就されつつある。(教義と聖約124:58)

アブラハムの 生涯における 旅と出来事

1. 若い頃

アブラムは、その信仰と確信のゆえに、誕生の地ウルで偶像崇拝者の手によって犠牲に供されそうになったとき、神の御使いの介入により命を救われた。またその地を襲った飢饉のために兄のハランを失った。後にアブラムはハランの娘サライと結婚した。(創世11: 26, 28, 29; アブラハム 1: 1—20; 2: 1, 2)

2. ハランへの旅

アブラムとその家族は、ひとつの村を築き、兄にちなんでハランと名づけた。父テラは、一旦は福音を受け入れたが、再び偶像崇拝に戻った。(創世11: 31; アブラハム 2: 4, 5)

3. 「約束の地」への旅

アブラムの一行はシケムに下り、次いでベテル(主がアブラムに現われたもうた地)とアイの間のモレの平野に至った。(創世12: 1, 5, 6, 8; アブラハム 2: 6, 14—20)

4. エジプトへの旅

飢饉のために一時エジプトへ下らざるを得なかった。アブラムは主に命じられ、エジプト人に妻サライのことを「妹」と言った。(ヘブライ人の間には、慣習として自分の姪を妹ということもあった)(創世12: 9—12; アブラハム 2: 21—25)

5. カナンの地へ帰る

アブラムは初め、ベテルに近い以前住んだ地に住みついた。豊かに富んだために、アブラムは自分の羊と牛の群れを甥ロトのそれと分けなければならなくなった。そこで南に移り、ヘブロンに住んだ。一方ロトは、シデムの谷とそこにある町々にまどびるヨルダンの平野に残った。(創世13: 1—12, 18)

6. 北方の国王の侵入

メソポタミア平原の王たちが同盟して、アブラムの住む東の地まで侵入してきた。(創世14: 1—12)

7. アブラム、ロトを救う

アブラムは、侵入者に捕えられているロトを救うために、家の子たちを引き連れて攻め寄せた。そして、サレム付近のシャベの谷で、シデムの谷の人々にその地を返した。

8. ヘブロンの地に滞まる

主はアブラムに以前の約束を再確認し、与えると約束した地について述べられた。(創世15: 1—7, 18 所在については、民数34: 1—12と申命1: 7をも参照)

バプテスマの誓約が再び強調され、割礼の儀式について告げられた。アブラムはアブラハム(「多くの国民の父」の意)に、サラはサライ(「王妃」の意)にそれぞれ

名を変えられた。(創世17: 1—16。靈感訳創世17: 1—12も参照)

9. 南の地に住む

アブラハムは、カデシとシュルの間の地ゲラルに一時滞在した。アブラハムは、以前エジプトに下った折にしたと同様の経験をアビメレク王との間でもした(創世20)。アブラハムが100歳、サラが90歳のときに、この地で生得権を持つ息子イサクが生まれた(創世21: 2, 3, 5; 17: 17)。イサクの生得権が奪われることのないように、ハガルとイシマエルはアブラハムの家から出された。そこで彼らはかなり離れた地、パランの荒野に住んだ。(創世21: 9—21)

10. 従順と信仰の試み

アブラハムとイサクはモリヤの地(サレムすなわちエルサレム)の山上で、将来のキリストの贖いを予告する経験をした。(創世22。所在については、ヤコブ4: 5と歴代下3: 1をも参照)

11. ベエルシバに住む

アブラハムはベエルシバに住んだ。またサラが(127歳で)死んだため、墓地としてヘブロン(地)のマクベラのほら穴を買った。それから38年後、アブラハムもその墓地に妻と共に葬られた。(創世23: 1, 2, 9, 17—20; 25: 7—10)

アブラハムの歩んだ地は、上記の1から11までに分けられる。

(5から11までは詳細図「カナンの地」を参照)



トルコ

ハラン

キプロス

アラブ連合共和国

アラム

大海
(地中海)

ダマスコ

アブラムは、サレムの地のメルケゼデクのもとを訪れ、什分の一を捧げた。そしてメルケゼデクより特別な祝福を受けられた。
(創世14:18-20。靈感訳創世14:18,25,37-40をも参照)
アブラムを神権に聖任したのはメルケゼデクであったが、いつ聖任されたか不明である。(教義と聖約84:14)

シケム

ベテル

アイ

ヨルダン

サレム

ソドム、ゴモラ、アデマ、ゼボイムの滅ぼされた町々は、現在死海の湖底に沈んでいると思われる。

ヘブロン

ベエルシェバ

イスラエル

ベエル・ラ・ハイ・ロイ
ハガルとイシマエルの住んだ地域
アブラムが86歳のとき、ハガルはイシマエルを産む。(創世16:1-16)

主の御使いがアブラハムのもとを訪れて予言し、またソドムとゴモラの切迫した滅亡について警告する。(創世18,19)

アラブ連合共和国
エジプト

エジプト

アブラハムの生涯における旅と出来事

アブラハムは、自分に与えられると約束された地に、寄留者として住んだ。しかし、飢饉が長い期間続いたので、羊と牛の群れを救うために、その地を一時去った。アブラハムは、彼自身はその地を所有しなかったが、その子孫がいつかその地を所有するであろうという約束を受け、そのことを知っていた。(創世13:2,5,ヘブル11:8-16)

シケム

ベテル

ゲラル

エル

ホ

タマル

シウル

カデシ

(カデシ・バルネア)

パランの荒野

少年をいやしたスミス大管長

11さいになるジョン・ルースフは、オランダのロッテルダムに住んでいました。学校や教会に行ったり、友だちと遊んだり、いろいろなおもしろいことをしては、楽しくくらしていました。ところがあるとき、とつぜん目の病気になり、それがもて目が見えなくなっていました。もう学校に行くことも本を読むこともできません。それに、友だちと楽しく遊ぶこともできませんでした。くる日もくる日も暗やみと不安でいっぱいでした。

オランダの末日聖徒に、ジョセフ・F・スミス大管長がおいでになるという知らせがとどきました。ジョンはしばらくこのことについて考えました。そしておかあさんにこう言いました。「予言者はこの地上のだれよりも大きな力をもっているんだよ。だからもし、おかあさんがぼくを集会に連れて行ってくれて、大管長がぼくの目を見てくださったら、きっとよくなるよ。」

次の日曜日のことです。集会が終わって、スミス大管長はひとりびとりとあく手をし、あいさつをするために小さな礼拝堂のうしろの方に行かれました。ルースフ姉妹は、目にほうたいをしたジョンが愛する指導者に話しかけてもらえるように、手をとってつれていきました。

スミス大管長は、目の見えないジョンに手をかけ、それからやさしくほうたいをとって、いたそうなジョンの目をのぞきこみました。そして予言者はジョンを祝福しまた見えるようになると約束してくださいました。

家に帰ってから、おかあさんはジョンの目のほうたいをとって、お医者さんに言われたとおりに目をあらいました。そしてあらい終わったとき、ジョンは大よろこびでさげびました。「おかあさん、ぼくの目なおったんだ。よく見えるよ、遠くだって。それにもうちっともいたくなんかないんだ!」



金 版

作 マーガレット・C・リチャーズ
キャロル・C・マドセン
絵 ハワード・ポスト

「金版」のうたは、その内容をよく考えると特別な意味があることがわかります。家庭の夕べで、家族といっしょにこのゲームをして歌を歌えば、きっと楽しくなるでしょう。

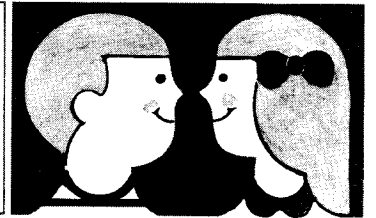
ローズ・トーマス・グラハム

J・スペンサー・コーンウォール
編曲マーガレット・C・リチャーズ

1. きん ば ん か く き れ て や ま に ふ か く しん
2. む か し の ひ と ニーファイ か き の こ し た き

こ う ふ か き ひ と い づ る ま で
ろ く の は な し モ ル モ ン け い てん

十二使徒から子どもたちへ



マービン・J・アシュトン



これは、金版についてもっとよく知ることができるようになるゲームです。左の欄と右の欄で、互いに関係のあるものを線で結びなさい。

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1. ジョセフ・スミスが金版を与えられた所。 | a. モルモン経 |
| 2. ジョセフが金版を受けた日。 | b. オリバー・カウドリ |
| 3. 金版をうめた古代の予言者。 | c. 1829年 |
| 4. ニーファイ人とレーマン人の歴史が記録されているもの。 | d. 1823年 9月21日 |
| 5. モルモンの子言者が書いた偉大な書のひとつ。 | e. クモラの丘 |
| 6. 金版がうめられた最初の時。 | f. モロナイ |
| 7. モルモン経が出版された時。 | g. 金版 |
| 8. 天使モロナイが、ジョセフ・スミスを訪れた最初の時。 | h. ニーファイ |
| 9. 翻訳された版は何と呼ばれているか。(なぜか?) | i. 1827年 9月22日 |
| 10. ジョセフが翻訳していた間の筆記者の名前。 | j. 紀元400年 |

もし私たちが、自分は「つまらない人間」だなどと言ったりしたら、天のお父さまはきっと悲しまれるでしょう。そんなふうに自分を決めつけてしまうことは正しいことでしょうか。家族や神さまに対してはどうでしょうか。

私たちはこの世につきものの悲しいことや不幸なこと、重荷に感じることやがっかりすることなどに出あったときは、自分を必要以上に悪く考えてしまいます。どのような状態であっても、自分は「つまらない人間」だなどと決めつけてはいけません。

私たちは神さまの子供です。「つまらない人間」なんかではありません。胸をはって神さまといっしょに歩いていくな、神さまは私たちを導き、力づけてくださいます。

私たちは神さまにかたどってつくられました。そして神さまのようになれる力を内にひめていますし、神さまの助けをえることもできます。このことを知っている私たちは何と祝福されていることでしょう。神さまの力をいただければ、私たちにできないことは何もありません。これはすばらしい恵みです。

苦しい状態にいるとき、さしのべられた助けに、「かまうものか、どうせばくはつまらない人間なんだから」と答えてしまうのは、とても悲しいことです。

みなさんが、たとえ人目につかない人であっても、「つまらない人間」ではないことを忘れないでください。

私は心からこうあかしします。私たちには、私たちすべてを愛してくださる天のお父さまがついていてくださいます。みなさんは天のお父さまの息子、娘です。そして天のお父さまに愛されているのです。



小さなお友だちへ

十二使徒評議会会補助

セドオア・M・バートン

おばあちゃんのおしえ

5さいのとき、わたしはおかあさんといっしょに、おばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんの家はひろびろとしたなかにあったので、遊ぶにはぜっこうのところでした。でも、おばあちゃんは、遊びたくてうずうずしているわたし



を見て、こういいました。「めんどりは、ひなをかえしたばかりだから、気をつけるんだよ。あまりちかよると、ひよこをとられるとおもって、とひかかってくるからね。」

「ちかよったりしないよ。」わたしはやくそくしました。

でも、めんどりとよちよちあるいているかわいいひよこを見たたん、おばあちゃんとのかやくそくはすっかりわすれてしまいました。ひよこはふかふかして、ほんとうにやわらかそうです。わたしはそっと手をのばして、その小さなひよこの頭をなでようと思いました。

「ピピー、ピヨピヨピヨ……」おどろいたひよこは、小さな足でいちもくさんにかけだしました。それを見ためんどりは、わたしめがけてとひかかってきました。わたしは、なきながら家へかけこみました。

「いじめたりなんかしないよ。ただ、あまりかわいらしかったから、ちょっとさわってみただけなんだ。それなのにあめんどりのやつが……。」わたしがそう言うと、おばあちゃんはやさしい声でこういいました。

「ぼくがいじめるつもりでやったんじゃないってことを、めんどりはわからないんだよ。ぼくはめんどりよりもずっと大きいし、きっとめんどりのやつは、ぼくにひよこをとられてしまうとおもったんだね。」

それからおばあちゃんはこういいました。「さあ、遊んでい。でもね、がちょうにちかづいちゃいけないよ。がちょうもひながかえったばかりだからね。それにめんどりよりもちからがあるからこわいよ。」

「うん、しないよ。」わたしはやくそくしました。

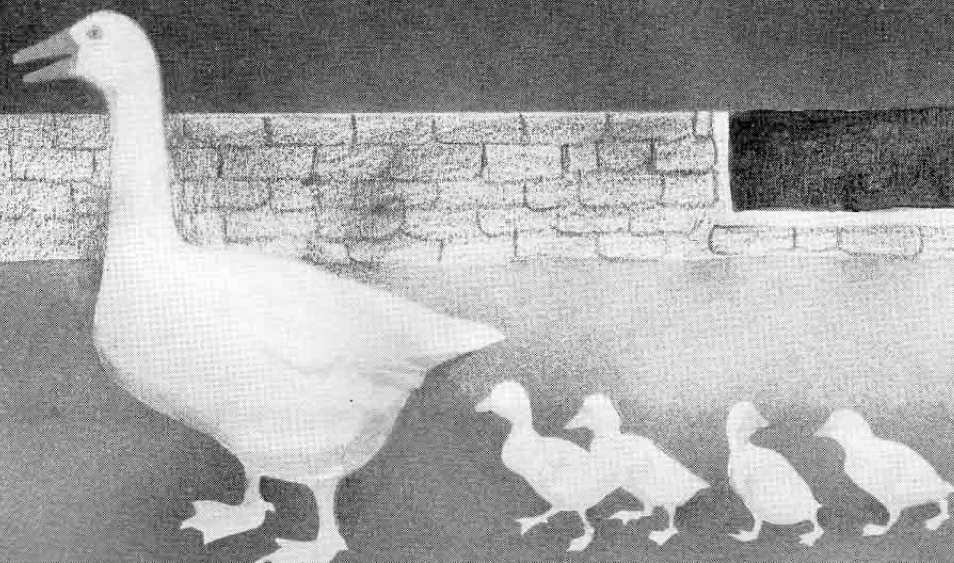
それからもういちど外に遊びにでました。ひよこはあいかわらずちょこちょこと、小さな足でかけまわっていましたが、こんどはわたしも、すこしはなれて遊びました。ふと見ると、おかあさんがちょうが、ひよこのがちょうをたくさんつれてあるいています。そのようすがあまりにもおもしろいので、わたしはもっとそばによって見たいとおもいました。

よく見えるところまできたたん、おかあさんがちょうが首をつきだし、くちばしをひろげて、わたしにとひかかってきました。からだ中をつつかれて、なきながらかえったわたしにおばあちゃんはこうはなしてくれました。

「おとうさんやおかあさんはね、子どもたちがかわいいんだよ。そして、どんなことをしてもまもってあげなければとおもってるんだね。それは、ぼくのおとうさんやおかあさんだけじゃなく、天にいらっしゃるおとうさまもおなじなんだよ。天のおとうさまは、わたしたち子どもをまもるためによげんしゃをおくってくださった。ステーキ部長会、かんとく会、ホーム・ティーチャー、それに日曜学校やブライマリーの先生は、みんなこのよげんしゃをたすける人なんだよ。この人たちはみんなぼくたちのことをしんばいし、見まもってくださってる。だからあんしんしてられるんだね。」

「神の子です」や「天のおとうさま」といううたを聞くと、わたしはいつも、このおばあちゃんのおはなしをおもいだします。

わたしたちは神さまの子どもです。神さまは、わたしたちのことを心から愛してくださいます。このことをわすれないようにしましうね。





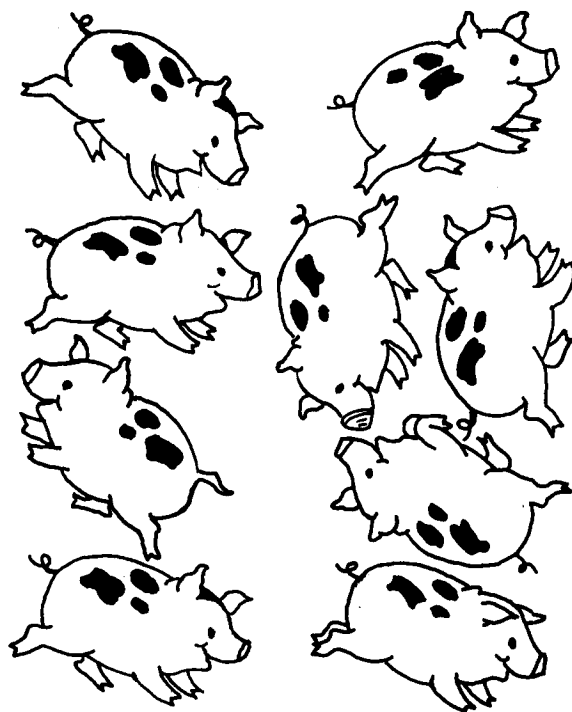
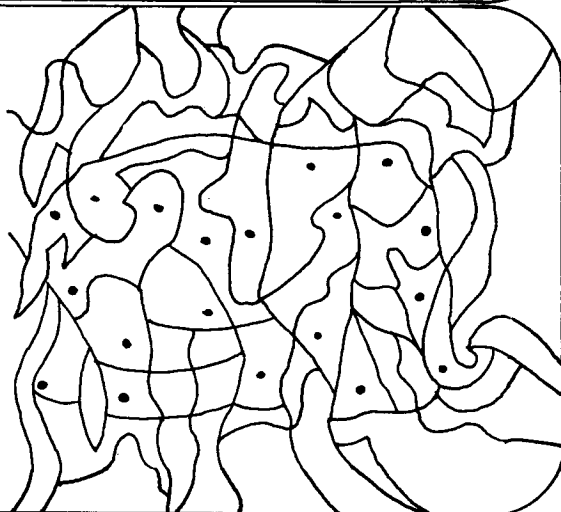
リサ子ちゃんはまなびます

メアリー・エレン・ジョリー

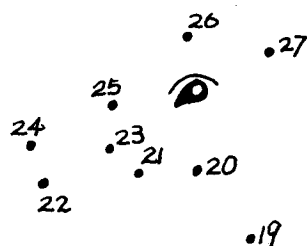
この子は  です。  はにちようがっこう
やプライマリーに  にいきます。  にいくと、
 は  をあけます。この人は  です。 
がにちようがっこうにいくと、  は  の 
のそばにたっていて、「おはようございます」と
いいます。この人たちは  です。この人た
ちも  といっしょに  のところにたってい
て、  がにちようがっこうに  にいくと「お
はようございます」といいます。この子たちは
 のなかのよい  です。みんないっしょ
に  にいって、  にめされた  からま
なびます。

おもちゃばこ

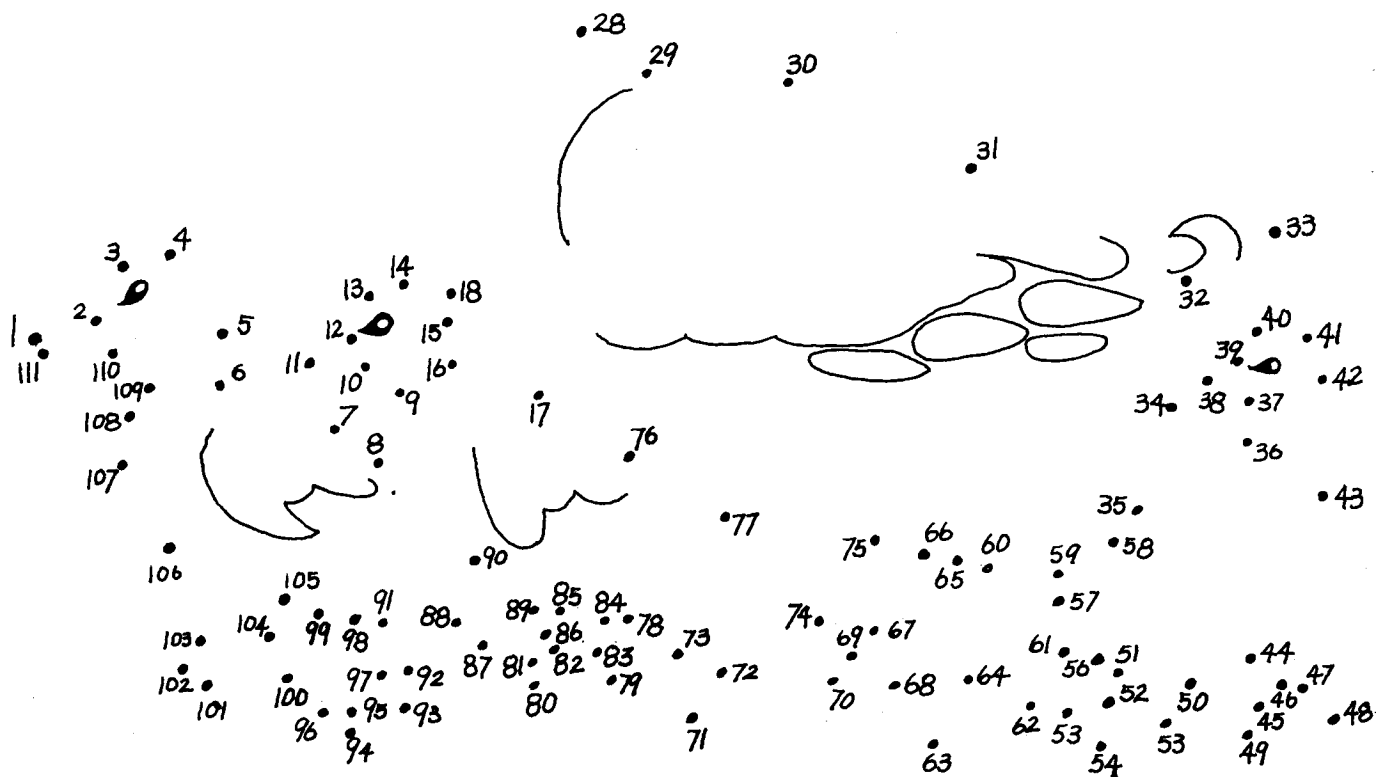
てんのついでいるところをぬって
みましょう。



おなじぶたにいろをぬりましょう



てんをむすんでみましょう
なんのかぞくがいますか。



家に急いでいたジョンが、くだりの坂道にさしかかったころ、きりはだんだんとこくなり、息ぐるしいほどに顔や手足にまわりついてきました。まだ10さいのジョンは、不安におびえながら、こんなときのためにウエストさんがかしてくれたランプをつけようと、しゃがみこみました。ところがきりでマッチがしけてしまって、全然つきません。ジョンは立ちあがって、コートをしっかりひきあわせると、夕ぐれが近づいてうす暗くなった前方を見わたしました。 ✓

はすっかりなくなりました。そして数分後に、「ジョン、やっぱり家に送って行こう」という声がきりの中から聞こえたときにも、少しもおどろきませんでした。それはウエストさんでした。

この少年は、後に第3代目の大管長になったジョン・ティラーです。ティラー大管長は80さいになっても、祈りがすぐに答えられたこの日のけいけんを忘れることはありませんでした。

きりの中の声

その日早く、ジョンはお母さんのいつけで、ひとりお散歩をしをしている羊飼いのおじいさんに、食べ物をご馳走に行ったのでした。おじいさんの家は、ジョンが住んでいるミルンソープから北東に3マイルほど行ったところでした。おじいさんにお使いに行かせてもらうのははじめてなので、うしろの胸はドキドキしていました。ところがジョンはウエストさんの家についてしまったのです。太陽が黒く、雨がふりだしたところ、ジョンはあわててウエストさんに「さようなら」を言いました。

ウエストさんはミルンソープまで送ってやろう、と言いました。けれどもジョンは首をふって、「ひとりでお使いにされたのは、これがはじめてなんです。もし送ってもらったりしたら、もうひとりでだしてもらえなくなるから、送らないでいいです」と言って、ことわったのでした。

ジョンは今になって、ウエストさんに送ってもらえばよかったな、と思いました。そしていっそう深くなったきりの中に、あやしげな物音が聞こえたり、何かがうごめいたりするような気がしました。ジョンはもう、自分がどこにいるのかわからなくなってしまいました。そのとき、大きな鉄の門につきあたりました。門の向こうからは、おそろしい犬のうなり声が聞こえてきました。

ジョンはおそろしさのあまり、どうしていいのかわからなくなっていました。そのとき、お母さんが、「ひとりぼっちに思えるようなときでも、神さまはいつもそばにいてくださるのよ」と言っていたのを思い出しました。

ジョンは、ひざまずいて助けを求めました。するとおそれ



心の清さ

管理監督会第二副監督

ボーン・J・フェザーストーン

バイロン・バッキンガム¹はこのように言いました。「己が心を水晶のごとく澄み通らせよ。我を気づかう世が、我が心最大の汚点を見出し得べく。」これは大きな哲理です。どの教会員も、このような心の状態になれるよう、生活すべきです。若いあなたがたは、自分の心を水晶のように澄み通らせる努力ができます。そうするとき、ある物事は考えの中に入ってきません。汚れた不潔なことを考えるのが不可能になります。汚れた思いでいると、自分の中に肉体的、霊的にある反応が生まれます。汚れた考えは神の姿を曇らせがちで、初めは非常にわずかですが、清らかな内なる自己に影が射します。その思いを繰り返すうちに影は濃くなり、まもなくものをその形のままだに見ることができなくなります。判断力を失い、本当の見方で物事を見る能力をなくし、私たちはサタンの張るくもの巣に縛られてしまいます。

心の清さは最も望ましい徳性です。清い人々には力がもたらされます。それははっきりわかる肉体的力です。ガラハド卿²は、心が清かったので十の力を持ったと言われています。清い心は精神の力と高潔を生みます。精神の葛藤と妥協の横溢するこの時代にあって、高潔と純潔を備えた人間は、小人国の巨人のように偉大です。

現代に失われていると思われるもうひとつの清さがあります。それは慎みです。真の慎みとは何であるか理解する人はごくわずかしかいません。先日私は、この王国の偉大な指導者と話をしていた、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長について一番印象的だったのはどういうことかと尋ねました。皆さんはその返事に驚かれることでしょう。一番強く印象を受けたことは、彼の比類ない知恵や聡明な心ではありませんでした。豊かな霊性ではありませんでした。各国の立派な指導者から高い評価を受けているということではありませんでした。それは、彼の全身からあふれてくる慎み深さなの

でした。J・ルーベン・クラーク副管長はすばらしい数々の性質と共に、まれに見る慎みの徳を備えていました。彼は服装と同じく、思いにおいても慎ましかったです。清さの標準からほんのわずかでも逸脱したら、彼にとっては恥辱でした。心の清い人に悩みは必要です。クラーク副管長の優れた説教の中に、十字架につけられた救い主をとりあげたものがあります。私たちはキリストのはりつけのことを語る彼の話に、その慎みをかいま見るのです。

「きっと持っておられたと思う慎みを思い浮かべ、湖の岸でのペテロの経験を思い出すと、彼らが救い主を裸にし、それから地面に十字架を倒して救い主を十字架に乗せ、横木は肩の下に、縦木からは救い主の体を支えるためにまたがせるくさびが突き出ているというとき、それは救い主に対してどんなにむごい仕打ちであったことだろう。彼らは初めに救い主の手を、次に足を釘づけにし、そして次に十字架を起こし、大きく揺れる十字架を地面に掘られた穴に入れ、非常に苦痛を与えるはりつけにしたのである。それは昔の人が知っていた一番残酷な死であった。」

私たちのほとんどは、イエスが被られた肉体的な苦しみに心を留めます。しかしクラーク副管長は大きな愛情を持って救い主の体のことを思いやると同時に、非常に慎ましい人が裸にされることで感じるせつない気持ちを、わが身のように感じているのです。クラーク副管長のような同情の感情は、心が清くなければ持てません。

メルケゼデク神権定員会のテキストを執筆したロイ・ウェルカー兄弟は、教会幹部に接したことについて質問を受けました。「ウェルカー兄弟、あなたは教会幹部の兄弟たちと身近に接しましたが、だれが一番印象的でしたか」との問いに、ウェルカー兄弟はちょっと考えてから言いました。「もちろん、幹部の方々はみんなすばらしいです。でも——長老が一

番印象深かったと思います。というのは彼は幼い子供が持っているような、清い心を持っておられたからです。」これは何とすばらしい属性でしょうか。私たち全員がこのような言葉を受けたいものだと思います。

パウロは「きよい人には、すべてのものがきよい」(テトス 1:15)と言っています。清いということは、それと異なるものが存在しないということです。心も精神も清い人は、生活からこれと異なる思いや熱情を取り除きます。これは私たちみんなの目ざすべきことです。

清い心になるには、しなくてはならないことがいくつかあります。救い主は、山上の垂訓の中でその方式を示されました。私たちは救い主の教えに従えば、この目標に達する道を見出すことができます。救い主は言われました。「へりくだりたる心にてわれに来る者たちはその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。」(Ⅲ ニーファイ 12:3) モルモン経には「われに来る者たち」という言葉が追加されて、意味が明瞭になっています。へりくだる人々は、キリストが唯一の希望であることを知った人々です。

「悲しんでいる人たちは、さいわいである、彼らは慰められるであろう。」(マタイ 5:4) 私たちは、苦しんで自分のゲッセマネを一度訪れるまでは、自分を清めてくれる精錬の過程を通過できないのです。

「柔和な人たちは、さいわいである。彼らは地を受けつぐであろう。」(5節) 私たちは心を高め、自己を向上させてくれる物事にはすべて心を開いていなくてはなりません。

。「義を渴望する者は聖霊に満さるべき故にさいわいなり。」(6節, モルモン経 Ⅲ ニーファイ 12:6 を引用して) 聖霊は、私たちが聖霊を伴侶に迎えるにふさわしいときだけ、私たちを訪れ、私たちと共にいます。慰め主が私たちと共にあるときは必ずその感じや導きがあり、私たちがそれに従うならば、心が清くなっていきます。

「あわれみ深い人たちは、さいわいである、彼らはあわれみを受けるであろう。」(7節) ハロルド・B・リー大管長は1946年10月の大会の説教でこのように言われました。

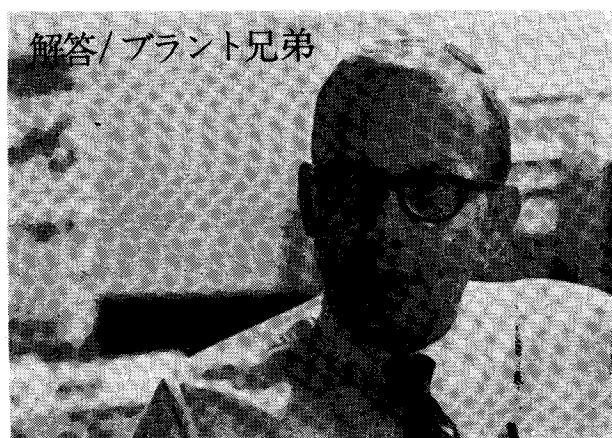
「心を……愛で満たさせる力のあることを、私は知っています。……何年か前のある夜のことで。私はベッドの上で、召された高い地位にふさわしくなるには、地上を歩むあらゆる人間を愛し、許さなくてはならないことを悟りました。そしてそのとき私は平安と、導きと、慰めと、靈感を受けました。それによって、自分に來るべきことを知らされ、私が感じていた印象は神からのものとわかったのです。」(1946年10月大会報告〔英文〕P.146)

心の清い人はリー大管長のようにキリストに似た者となります。どうして不親切なことが考えられるのでしょうか。もし私たちがキリストの純粋な愛を持っているなら、どうして人の噂をしたり、批判したりできるのでしょうか。服装や考えに慎しみをなくせるのでしょうか。あえて予言者のような高潔な生活を送らなくともよいとどうしていえるのでしょうか。私たちは地上を歩むあらゆる人を愛し、許さなくてはなりません。これこそ、あわれみ深いというあの神聖な徳性です。先に述べた方式に従って生活する人たちに対して、救い主は言っておられます。「心の清い人たちは、さいわいである。彼らは神を見るであろう。」(8節)

すばらしい友である若人たちよ、道はまっすぐで狭く、それを見出す人は少ないのです。しかし、あなたがたにはその道が目の前に開かれています。救い主に従うとき、あなたがたは自分の働きの実がうまいことを知るでしょう。そして真理の福音に比較すれば、世の与えるすべてのものが見せかけだけのものに過ぎないことを知るでしょう。神にまみえるにふさわしくなるよう、神と共にまた永遠に家族と共に住むにふさわしくなるよう、心のすべてを注いで清い心になろうと努力して下さい。

質 疑 応 答

「契約の箱とは何ですか。それは現在も何らかの形で存在しますか。」



イスラエルの子らがエジプトで捕われの身から逃れてすぐ後、モーセは、約束の地に定住するまで使用するための幕屋、すなわち移動できる神殿を造るようにと命じられました。(教義と聖約 124 : 38) イスラエルの民が不信仰になったため、完全な神権とそれに伴う儀式は取り上げられ、それより小さな神権が民の間に存在しました。(教義と聖約 84 : 17-27) そのとき、幕屋は聖所として残され、そこで小神権の儀式が執行されることになりました。幕屋の様式や備品は神から啓示され、幕屋が完成したのちは主の務めのため、主に捧げられました。その後、移動できるこの建造物は、イスラエルの権能を持つ神権者だけが運搬し、管理しました。

この幕屋の備品のうちで最も大切なものは、聖典の中であかしの箱、主の箱、主の契約の箱とも呼ばれる契約の箱でした。それはアカシヤの木で作られ、金箔が貼りつけられた箱で、太体 1.2×0.8×0.8 メートルの大きさでした。金箔を貼りつけたさおを通して箱を運べるように、角に環が取り付けられていました。また、箱には、向かい合せにふたつのケルビムを置いた金のふた(贖罪所と呼ばれました)がありまし

た。(出エジプト 25 : 10-22) 箱の中には、十戒を刻んだ二番目の石板が納められていました。(出エジプト 25 : 16, 靈感訳申命 10 : 1-5) また、その時代その時代の神聖な記念品も入れられました。(ヘブル 9 : 4, 5, 列王上 8 : 19)

箱は、幕屋の中で最も神聖な場所である至聖所に置かれました。その箱は、イエス・キリストの贖いを絶えず思わせるものとされていました。モーセの律法の下で、古代イスラエルの民の行なった最高の儀式には、レビ人の大祭司が年に一度至聖所に入り、民の代わりに神権者を代表して、象徴的に贖いを行なうことが含まれていました。箱のふたである贖罪所は贖い自体を象徴していて、悔い改めた者の罪をおおう物でした。さらにこのふたには、神がイスラエルを導き、イスラエルと共にいるために来られる場所でした。神は聖なる部屋の中で贖罪所の上から代表者に会ったり語ったりされました。(出エジプト 25 : 22, レビ 16 : 2, 民数 7 : 89) 神のみまえと死ぬべき人間との間は幕で隔てられているので、神のみまえを象徴したこの箱は、幕屋の外では幕で囲まれました。神がイスラエルを導かれるしるしとして、旅であろうと戦争であろうと、民の先頭になって運ばれました。古代イスラエル人にとって、契約の箱は選ばれた民に下る神の力と恵みと慈悲と導きを表わす重要なしるしでした。

契約の箱はシナイから約束の地まで運ばれました。

あの不思議なヨルダン川の渡河(ヨシュア 3 : 3-17) やエリコの陥落(ヨシュア 6 : 1-21) は、イスラエル人にとって主の箱がいかに大切であったかを示しています。ひとたび約束の地に入ると、箱は永久に安置される場、すなわち神殿が建立されるまで、いろいろな場所に置かれました。裁き司統治の時代、契約の箱はベテルの町にありました。(士師 20 : 27) またサムエルが予言者でペリシテ人との戦いがあるまでの間、箱はシロに置かれ(サムエル 1 : 9, 3 : 3)、戦争中はエベネゼルという戦場に携え行かれて、ここで箱が奪われました。ペリシテ人は権能がないのに箱を所有したため、7カ月間ひどい疫病に悩まされました。それでペリシテ人は箱をイスラエル人に返しました。その場所がキリアテ・ヤリムの村です。(サムエル上 4-6) 箱は20数年間ここに置かれていましたが、サウル王は箱の要請があっても無視し、たった一度戦いのときに持って行っただけでした。しかしついにダビデ王が箱をエルサレムに持って上り、数年して息子のソロモンが待望の神殿を建てました。それに続く戦いと抗争

の年月も、契約の箱はユダ王国のイスラエルの民の間に置かれていました。箱に関する最後の記事は、ヨシュア王の改革の時代に見られます。このときを最後に、契約の箱の所在について、聖典は沈黙しています。ユダヤの歴史家ヨセフスは、キリスト在世当時にエルサレムのヘロデ神殿には契約の箱がなかったと書いています。（ヨセフス*「ユダヤ戦記」第5巻第5節）ユダヤの伝説によれば、ネブカデネザルがユダヤ征服のときに神殿といっしょに契約の箱を壊したとも、予言者エレミヤが神殿崩壊の前に、数世紀前にモーセが約束の地を見下ろした山（ネボア）に箱を隠し、神が再び民を集められるときまでそのままにされるとも言われています。箱がどうなったか、今も存在するのかということは、啓示されていません。しかし、末日聖徒は聖餐の讃美歌（76番「主イエスの愛に」）の中で契約の箱のことを歌っています。3番に「みくら（贖罪所）の前にひざまづいて主のみめぐみをたたえまつらん」とありますが、ここでは契約の箱を、イエス・キリストの贖いの記念としています。

契約の箱のエルサレム搬入に際してイスラエル人を助けたウザの話は、末日聖徒に大切なことを教えています。箱はい

つも権威ある人たちだけがさおで運ぶことが主によって規定されていました。全イスラエルから護衛となる代表者が選ばれ、集められて、ウザとその兄弟は車の責任を受け持ちましたが、町へ向かう途中で、車を引いていた牛の1頭がつまずき、ウザは「手を伸べて箱を押えた」ために主から撃たれました。箱は神がイスラエルを導かれること、イスラエルの中におられることのしるしでしたが、民はそれを無視しました。そのためにイスラエルにもウザにも裁きが下りました。

私たちの時代に、「手を伸べて箱を押え」ようとする人々、つまり神の王国のことやその内部のことでひとりよがりな指導をする人々は、罪の裁きを被ると警告されています。（教義と聖約85：8，9）予言者ジョセフ・スミスは、不穏しかも困難な時期における教会の指導についてこう言っています。「……人は神の箱を押えることはできない。私の腕もそれはできない。押えられるのは神である。」（*Documentary History of the Church*「教会歴史記録」第5巻[英文]P. 20）

エドワード・J・ブランド
ソルトレーク
インスティテュート

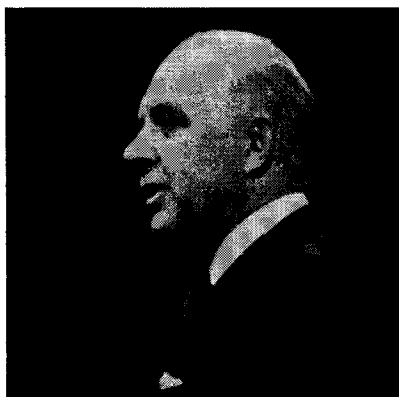
*ユダヤの歴史家、戦略家

予言者の役割について

生ける予言者とは

七十人最高評議員会会員

A・セオドア・タトル



主 は教義と聖約第1章をこの言葉で締めくくられた。「主、われに言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。」（教義と聖約1：38）

私たちは今、主の僕の声聞いた。その声は主の声と同じである。リー大管長は代々の予言者たちと同じことをなした。彼は父なる神が生きておられ、

イエス・キリストが私たちの救い主、贖い主、この教会の頭であることを証した。また、ジョセフ・スミスが回復の予言者であったことを証した。彼は以前のあらゆる予言者と同様に、平和への道がイエス・キリストの福音にのみあること、すなわち生ける予言者たちを通じて啓示された神の戒めを守ることによってのみ、永遠の生命が見出せることを宣言した。

生ける予言者とは何であろうか。年は何歳であろうか。生ける予言者は老

若どちらでもよい。特別な祭服をつけたり、羊飼の杖を持つ必要はない。外見の様相は重要ではない。予言者は学位を持つ必要もなければ、特権階級の出である必要もない。金持でも貧乏人でもよい。予言者には人の資格証明書はいらない。

では、予言者たるにはどのような資格が必要であろうか。

まず第一に、神が彼を予言者として選ばれることである。これは、人が神を選ぶことと全く異なる。救い主は使徒たちに言われた。「あなたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んで按手聖任したのである。それは、あなたがたが行って実をむすび…」(欽定訳ヨハネ15:16)

「われらは、福音を宣べ、且つその儀式を執り行うためには、啓示と、権威ある者の按手により、神によりて其任に召されねばならぬことを信ず。」

(信仰箇条第5条)

であるとすれば、予言者は主の権威ある代表者である。たとえ世が彼を認めなくとも、要件は、神が彼によって語られるということである。予言者は教師である。彼は主から啓示を受ける。それらは新しい真理やすでに受けた真理の説明であることもあろう。

亡き予言者を信ずることは容易である。多くの人が信じている。どういうわけか、過去の予言者のまわりには信憑性が漂う。しかし私たちの間で生活し、日々の問題に取り組まねばならない、生ける予言者たちを信じるのは重要なことである。私たちの救いは、生ける予言者を信じて彼の言葉に従うことにかかっているのである。彼のみが、全教会に関する啓示を受ける権利を持つ。他のだれにもまして彼の言葉

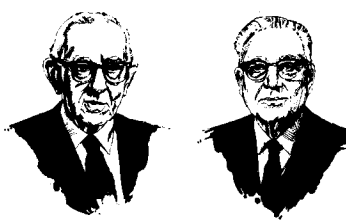
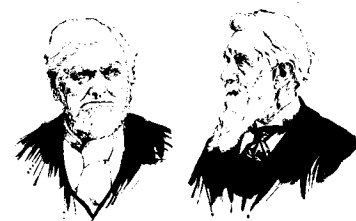
は、世と教会とから重んじられ、熟慮されるべきである。やがていつの日か、この真理が理解されるであろう。

ある人が言った、「この教会の指導者に授かっている神の力を悟り、それが火のように心に広がるまでは、人は本当に改宗しないのです」と。

ある人々は、このような力と権威がひとりの人間に与えられることを怪しむかもしれない。彼らは、「彼は間違った方向へ導きはしないだろうか」と聞く。ウィルフォード・ウッドラフ大管長があるときこう語った。「私はイスラエルに告げる。主は、私やこの教会の大管長のだれにも、あなたがたを迷わせることを決して許されない。それはこの計画にない。それは神のみこころではない。もし私がそれを企てるとしたら、主は私をこの地位から取り去られる。人の子らを神のみむねにそむかせ、なすべきことからはずれさせようとするほかのだれにも、主はそうされるであろう。」(*Discourses of Wilford Woodruff*「ウィルフォード・ウッドラフの説教集」P.212-13)

ヘンリー・D・モイル副管長はこのように言った。「年をとるにつれ、また大管長と近く接するにつれ、今私たちの持つあらゆる聖典のうち最大のものは現在の聖典であることを、ますます深く認識する。神の代弁者が神の子らに語ることは聖典である。それは聖典を通して示される神の御言葉、神のみむね、神の律法である。私はほかの何よりもそれを愛する。」(BYU三ステーク部合同ファイアサイド、1963年1月)

主は僕たちにこの約束をされた。「およそ聖霊に感じたる時語るところはことごとく聖典の言となり、主の意とな



り、主の精神となり、主の言となり、主の声となり、世を救いに導く神の能力となるべし。」(教義と聖約68：4)

ジョン・テイラー大管長は語った。「私たちは天にあってその力を発揮している神権より発する生ける木、生ける泉、生ける知恵を地上の生ける神権を通じて与えられることを求めている。……また、アダムが初めて神から交通を受けたときから、パトモス島でヨハネが神の交通を得たときに至るまで、あるいはジョセフ・スミスに天が開かれたとき、常に新しい啓示が必要とされ、教会や個人の置かれたその時々状態に合わせて与えられた。アダムへの啓示はノアに箱舟を造ることを教えず、ノアの啓示はロトにソドムを見放すことを告げず、またそのいずれもイスラエルの子孫のエジプト脱出を語らなかった。これらの予言者はすべて自分たちのための啓示を受けたのであり、それはイザヤもエレミヤもエゼキエル、イエス、ペテロ、パウロ、ヨハネ、ジョセフも同じであった、私たちもそのはずである。さもなくば、私たちは挫折崩壊するであろう。」(*The Gospel Kingdom*. 「福音の王国」〔英文〕P. 34)

オルソン・プラットは言った、「私たちが生ける予言者の言葉を拒否するとき、それはとりもなおさず神の啓示を拒否しているのである。なぜであろうか。神の啓示は私たちに、生ける予言者の言葉に耳を傾けるようはっきり命じているからである。そのため、もし私たちが書き記された言葉に従おうとしながら、同時に、生ける神の予言者の言葉に注意を向けなければ、書き記された言葉は私たちが罪ありとするであろう。……」(*Journal of Discourses*.

「説教集」第7巻〔英文〕P. 373)

聖徒たちに説き勧めることは、予言者の権利であり責任である。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は述べた。「私たちは神の民として、この勧告を軽々しく扱ってはならない。なぜかと言えば、人は正式に権威を受けたこの民の指導者の勧めに逆らって繁栄したためしがないからである。私はこれを主の御名によりあなたがたに語る。またこれは私が教会員になって以来目にしてきたことである。……あなたがたは、この勧告に反対の立場を取る人が、皆決して栄えないことを知るであろう。

……私たちは多くのことについて、戒めではなく勧告によって治められてきた。これは聖徒たちにとって祝福であった。……」(*説教集* 第14巻P. 33, 36)

スティーブン・L・リチャーズ長老は勧告について述べている。「…しばしば省みれば、私たちが勧告を受けているということの重大な点が、よく理解されるであろう。私たちは法律違反を罪とみなし、その極端な用語を、勧告に従わないことにはあてはめないが、教会において、神権のもとにあっては、勧告は常に法律を守らせることを第一の目的として与えられるので、それは福音の律法にはば匹敵する重要な位置を占めている。」(*BYU講話* 1957年2月26日)

J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は現代の必要を端的に指摘している。「私たちが現在必要としているのは、さらに何人もの予言者ではない。私たちには予言者たちがいる。私たちに必要なのは、聞く耳を持ったさらに多くの人々である。それが私たちの世代にとって切実に必要なことである。

主の予言者が「主はこう言われる」と宣言しなければ、その言葉を啓示として受け入れようとしない人々がいる。この基準は誤っている。教義と聖約に含まれる近代の啓示の多くがその言葉を使っているが、それが使われない啓示も多いからである。」(*Church News* 「チャーチ・ニュース」1954年7月31日)

マリオン・G・ロムニー副管長は、神の僕の証を聞いた人々の責任を明確にした。「現在の神の証し人である私たちは、予言者たちの証と自分自身の証を……あなたがたに伝える責任を果たしているにすぎない。

私たちが証をあなたがたに説き示すとき、証し人とその証の真偽を決定する責任は私たちからあなたがたに移るのである。何びとにもこのことに関する自分の決定を軽く考えさせてはならない。」(*Improvement Era* 「インプループメント・エラ」(1967年12月号, 〔英文〕P. 100)

教会の大管長に従うのは特権である。

この大会では、その他の教会幹部、予言者、使徒たちが、私たちに勧告するであろう。願わくは私たちが主の声に耳を傾けることを。

「主、われに言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くと、わが言葉は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。見よ、みよ、主は神にして『みたま』は証す。また、この証は真実にして真理は永遠に変ることなし。」(教義と聖約1：38, 39)

イエス・キリストの御名により、アーメン。

啓 示 の 岩

十二使徒評議員会補助

ジョセフ・アンダーソン

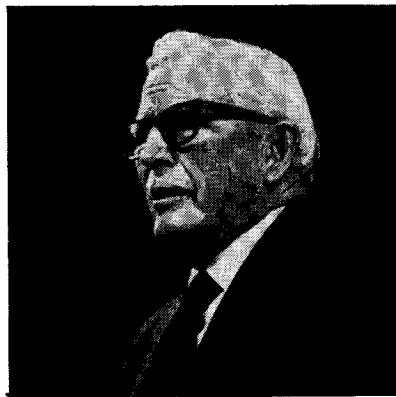
ア ダムから数えて6代目のエノクはまぎれもなく、あらゆる時代を通じて最も偉大な予言者のひとりであった。300年間も主と共に歩み、語ったと聖典が伝えている人物である。エノクが理解したこと、彼の人物の大きさ、さらに天地の創造主が啓示された永遠の真理を想像してみたまえ。

高価なる真珠のモーセの書に、次のように記されている。

「われ主を見たり。主はわが面の前に立ちたまえり。あたかも人、互に顔と顔を相見て語るが如し。主われに言いたまひけるは、見よ、さらばわれ幾世に亘りて汝にこの世を示すべし、と。」(モーセ7:4)

主はエノクに地に住むすべての人を見せ、人の子らのすべての行ないを示された。それでエノクは、人々の悪事を見、洪水がノアの時代に地をおおうのを見た。時の絶頂に人の子が肉に宿って降るのを見、十字架にかかるのを見た。神の創造物が悲しみ、地がうめくのを見た。そこでエノクが神にたずね、嘆願すると、主は答えて言われた。

「われ生くる如く誠にわれ終末の世に来るべし、邪曲と応報の世に來りて、……その日至りて、地は休息に入らん。されど、その日の来る前に天は暗くなり、暗黒のとばり地を覆わん。天も地もより動くべし。また大いなる艱難人の子らの中にあらんも、われはわが民を護るべし。」(モーセ7:60, 61)



天父なる神と御子は、人が地上におかれる前から、否、創世の前から、人が地上に生活することを知っておられた。言い換えれば、現世の生活と、来世における救いと昇栄を予め知っておられた。数々の神権時代が予見され、地上の生活の目的も理解されていた。そしてその計画の実施段階は、緻密に描かれていた。もしそうでなければ、主はエノクやその他の予言者に示されたように、世界の歴史を見せ、何世紀にもわたる地上の家族を見せることができたのだろうか。

アブラハムの書に次のように書かれている。

「さて、主はわれアブラハムに、この世に先だちて組織されたる英智たちを見せたまひたりき。而して、これらすべてのものの中には、高貴にして偉大なるもの多くありたり。神、これらの霊を善しと見たまひ、これらの霊の中に立ちて言いたまえり、これらの者

をわが統治者となさん。神、霊なりしこれらの者の中に立ちて、これを善しと見たまひたればなり。而して、神われに言いたまひけるは、アブラハムよ、汝はこれらの者の一人なり。汝は生れざる前に選ばれたり、と。」(アブラハム3:22, 23)

聖書のエレミヤ書1章に、主が予言者エレミヤに次のように言われたと記されている。「わたしはあなたをまだ母の胎につくらないさきに、あなたを知り、あなたがまだ生れないさきに、あなたを聖別し、あなたを立てて万国の預言者とした。」(エレミヤ1:5)

主はだれが統治者になるかを知っておられたが、それだけでなく、福音の各神権時代の時を示す予定表、あるいは概要、その時代に起こる出来事、そして各神権時代に先立つ状態も知っておられたに違いない。

聖典は、これらのことについて神の僕が述べた予言を記録している。そして主は、アダム時代以来、予言者を通じて、再降臨に先立ついろいろな出来事を予告され、主の福音が地上に回復されて全人類に宣言される時代のことを知らされたのである。

バビロンのネブカデネザル王はイスラエルを征服したとき、イスラエルの王の血統の者を何人かバビロンへ連れて行った。聖書に次のように記録されている。「すなわち身に傷がなく、容姿が美しく、すべての知恵にさとく、

知識……のある若者を連れてこさせ……」(ダニエル1:4) バビロンに連れてこられたこういった若者の中に、ヘブル人の予言者ダニエルがいた。

ダニエル書にネブカデネザルが見た夢の話が出ている。王はこの夢のことで大いに悩んだ。目をさましたとき、夢を思い出せなかったという。王は、バビロンの賢者、博士、魔術師、カルデヤびとを召し、夢とその解き明かしを示すように求めた。これは当然のことながら途方もない要求であった。それで賢者たちは、動揺した。だれも王の要求にこたえることができなかったのである。

王は、もし示すことができないなら、おまえたちを全員殺す、と言った。この窮境を知ったダニエルは、主に請い求め、霊感によってネブカデネザルの求めることを得ることができた。そして王に夢を思い出させ、その解き明かしをしたわけである。

ネブカデネザルは、夢の中で人のようなひとつの大いなる像を見た。その像の頭は金で、ネブカデネザルのバビロニア王国を表わしていた。像のその他の各部は、その後続く諸々の王国を表わしていた。特記すべきことは、ダニエルが王に次のように言ったことである。「あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。」(ダニエル2:34)

またこうも言った、「それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく……」(ダニエル2:44)

主はネブカデネザルの時代に、地上に興る諸王国のことをすでに承知しておられた。また御自分の王国、すなわち神の王国が建てられる時を知ってお

られた。選り優った霊、言い換えるとこの神権時代の予言者ジョセフ・スミスとその後継者を知っておられた。今日も主は、御自分の教会と王国の行く末を知っておられる。この王国が大きな山となって、あの普通でない夢に示された目的を達することを承知しておられる。

今日主はどのようにして、祝福師や予言者を通して、未来の状態を知ることができるのだろうか。祝福師や予言者は、人がまだ小さい子供あるいは少年にすぎないのに、将来主の教会で使徒や予言者になることをどのような

「この神権時代における神の王国の指導者も、この末日の時代に地上に生を受ける前、神を代表する者としてすでに選ばれていたのである。」



にして予言できるのだろうか。

その実例をあげれば、ジョセフ・F・スミス、ヒーバー・J・グラント、デビッド・O・マッケイ各大管長、その他の人々は、いつか教会の最高評議会で座を占めるであろう、あるいは、主イエス・キリストの使徒になるであろう、この神権時代に大管長になるであろう、と予告されていた。またそのほかにも大勢の人々が卓越した地位に召されるであろうと予告され、それが実現している。

「……ウィルフォード・ウッドラフ大管長も、ロレンゾ・スノー大管長もジョセフ・F・スミス〔ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の父〕が、いつか大管長になると予言している。ジョセフ・F・スミスが大管長になる37年前、当時十二使徒であったスノー大管長は、ハワイ諸島でおぼれて死にかけたことがあった。そのときスノー大管長は、主が私に知らされた、と言って次のように宣言した、『この青年ジョセフ・F・スミスは、……いつか地上で神の予言者となるだろう。』ウッドラフ大管長は、あるとき、子供たちを前にして、予言者ジョセフ・スミスの生涯に起こったいくつかの出来事を話していた。ウッドラフ大管長はジョセフ・F・スミス長老の方を向いて、起立するように求めた。スミス長老は言われるとおりに立った。そこでウィルフォード・ウッドラフは言った、『皆さん、この人を見て下さい。この人は、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長になるでしょう。私がけさ話したことを、皆さん、ぜひ覚えていて下さい。』」(ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニアとジョセフ・J・スチュワート、*The Life of Joseph Fielding Smith*「ジョセフ・フィール

ディング・スミスの生涯」〔英文〕P. 124)

7代目の大管長になったヒーバー・J・グラントが、まだ小さな子供で、扶助協会の集会の間床で遊んでいたとき、本当の女予言者であったエライザ・R・スノーは、異言によって彼に祝福を与えた。それを解いたジナ・Y・カード姉妹によると、それはこの少年がいつか主イエス・キリストの使徒になるであろうという主旨であった。

また別のときに、ブリガム・ヤング大管長の副管長であったヒーバー・C・キンボールは、やはり同じく少年ヒーバー・J・グラントを、テーブルの上に立たせ、いつかこの少年は教会にあって、父親よりも偉大な人物になるだろう、と予言した。少年の父親ジェダヤ・M・グラントは、ブリガム・ヤング大管長の副管長であった。

またグラント兄弟が24歳で、トゥエラステークス部長であったとき、祝福師の祝福を与えたジョン・ローベリーは、その中で、あなたはいつか教会の最高評議会で座を占めるであろうと言っている。そして祝福を与え終わってから、グラント兄弟にこう語った。「ヒーバー、あなたの頭に手をおいたとき、私は、今あなたに言えない光景を目にした。」

グラント大管長は、後に大管長になってから、ローベリー兄弟があのように言ったとき、ある声が次のように言うのを聞くような気がした、と述懐している。その声はこうであった、「あなたはいつか大管長になるだろう。」グラント大管長は、そのようなことを思うだけでも不遜なことであると考えたので、大管長になるまで、だれにもこのことを言わなかったのである。

デビッド・O・マッケイ大管長がス

コットランドで若い宣教師として伝道していたとき、非常に霊的な集会が、副伝道部長ジェームズ・マクマリンの指導の下に行なわれた。証が述べられ霊的な経験が話されていったとき、マクマリン副伝道部長が、マッケイ大管長に向かって、こう言った。「マッケイ長老、私はあなたに、救い主がペテロに言われたのと同じことを言いたい。『サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが改宗したときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。』」(欽定訳ルカ22:31, 32)そして

「今日主はどのようにして、

祝福師や

予言者を通して

未来の状態を知らせることが
できるのだろうか。」

続いてこう言った、「あなたが忠実であるなら、教会の最高評議会に座を占めるであろう。」

ほかにも同様の事例を述べる事ができよう。

アブラハムやエレミヤ、その他の古代の予言者と同じように、この神権時代における神の王国の指導者も、この末日の時代に地上に生まれてくる前、神を代表する者として、すでに選ばれていたのである。

この福音の神権時代を招来するに至った過去の歴史を読むことは興味深い。たとえば次のような事柄である。ルーテル、カルビン、ノックス、その他の宗教改革者の業績。一般の人々にも神の言葉が読めるように、聖書の印

刷の道が開けたときのいきさつ。印刷術の奇跡的な発見。自分の良心の命じるとおり神を礼拝したいという人々の勇気。自由を求めてアメリカに渡ってきた清教徒の話。アメリカの独立戦争、合衆国憲法の制定。これらは皆、福音の回復とこの神権時代開幕の序曲となるものであった。

時満ちたる神権時代は、天父と御子、その他の天使たちが、少年ジョセフ・スミスを訪れたことで、始まった。暗黒は消え去り、光と英知が注がれるようになった。神の王国は、ネブカデネザルの夢に示されたように、地上に確立され、人手によらずに山から切り出された石のように、全地に満ちている。そして、主の再臨を待ち望んで、満ちていくであろう。

天父なる神は、御自分の経験と全知の力によって、初めから終わりまでを知っておられる。天父は予言者を通して、人類の歴史を、この惑星上の生活の時刻表を、啓示してこられた。また今も啓示しておられる。

今は、時満ちたる神権時代であって以前の神権時代の鍵が、すべて回復の予言者に与えられている。神が天から語り、天使が人に姿を現わした時代である。聖霊が人々に与えられ、聖霊の力によってすべてのことの真理を知ることができる時代である。今日この地球上で必要とされているのは、この偉大な力である。

この世の歴史は、創世の前に備えられた計画に沿って、展開している。この世がモルモニズムと呼ぶものは、啓示の岩を基としている。この岩は、イエス・キリストの福音であり、永遠の真理であり、救いの計画である。以上のことを、イエス・キリストの御名によって証する。アーメン。

汝らの子供たちを見よ

十二使徒評議会会員
ボイド・K・パッカー

これら罪のない子供たちが歌うのを聞いて、心を動かされない人がいましたでしょうか。私は今、ニーファイ第三書の第17章にある記録のことを考えています。このとき主は、子供たちを連れて来るように、とお命じになりました。人々は、連れて来た子供たちを地面にすわらせました。また主は群衆に、子供たちを皆連れて来るまで道を開けておくように、と言われました。そして、群衆にひざまずくように命じられると、御自分も子供たちの間でひざまずき、祈りをささげられました。

次のように記録されています。

「『私たちが見たり聞いたりしたイエスの御父に対するお祈りは、人の目がまだ見ず、耳がまだ聞かないほど偉大で驚嘆すべきものである。

これを口で言いあらわせる者もなく、筆で書きあらわせる者もなく、また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきものである。……』」

この祈りをささげられた後、イエスは涙を流された、と書いてあります。そして「イエスはそれからかれらの小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与え、かれらのために御父に祈りたもうた。

そしてこれをしてしまうとまた涙を流したもうた。

イエスが群衆に『汝らの子供たちを見よ』と仰せになった……」（Ⅲニーファイ17：16，17，21—23）とあります。

小さな子供たちは、本当にたやすく私の心の中に入り込んで来るのです。私はそれを認めざるを得ません。でも別にそれを恥ずかしいこととは思っていません。私の家にも、まだ4歳にならない子供がひとりいます。その子が



ほんの一言「パパ」と言うだけで、私の心には火がともされるのです。私はきょうのこの責任を果たすにあたってこの子からいささかの助けを受けています。

「……子供たちは神から賜った嗣業」（詩篇127：3）です。そこできょう、私は小さな子供たちのために話したいと思っています。歌を歌ってくれた子供たちが、今大勢ここにいます。また他にも本当に沢山の子供たちが、テレビやラジオを通じてこの話を聞いています。私が大人向けの話をしないからといって、きげんを損ねる方はおられないとは思いますが……。

さあ、子供たち。私はこれからとても大切なことをお話したいと思っています。決して忘れないでほしいことです。また、小さいうちに知っておく必要のあることです。では、よく聞いて下さい。

あなたたちは、自分がこの地上に来る前にも生きていたことを知っていますか。お父さんとお母さんの所に生ま

れる前、あなたたちは霊の世界に住んでいたのです。

これはとても大切なことです。これがわかると、他のとてもわかりにくいことも、沢山わかるようになります。世の中の多くの人々は、このことを知りません。でも本当のことです。

あなたたちは、この世に生まれたときに初めて造られたものではありません。ただ、あなたたちの骨や肉の体だけが造られたのです。あなたたちはどこか別の所からやって来ました。そう、天のお父様のもとから来たのですね。ちょうど、地上で住む時間になったので、送られて来たのです。

あなたたちがこの地上に来たのにはふたつの理由があります。第1の理由は、この骨や肉の体を受けることです。これは、とても大きな恵みなのです。私たちの天のお父様は、あなたたちの生まれる前に、いろいろと準備をして下さいました。そして、あなたたちのお父さんとお母さんがとても愛し合っていましたから、あなたたちの体がお母さんのおなかの中に入り、大きくなり始めたのです。それからあるとき、確かなときはわかりませんが、あなたたちの霊が体の中に入り込みました。このようにして、あなたたちはこの世での命を受けたのです。でも、小さな赤ちゃんとして生まれたときが初めてでないことはお話ししましたね。

あなたたちの体を動かしているのは心です。そして性格がつくられています。あなたたちは、この世で生活している間中、いろいろな経験を通して、いつも正しいことをすることができるようになります。そして、このことは、いつまでもとても大切なことなのです。

皆さん、私の手があなたたちの霊だ

としましょう。手は生きていますからちゃんと自分で動くことができますね。では、この手袋があなたたちの体だとしましょう。手袋は自分では動けません。ですから霊が体の中に入るとそのとき体は、跳んだり跳ねたり、息を吸ったり吐いたりすることができるのです。こうしてあなたたちは、霊と体がひとつになって、この地上で生活を始めたのです。

でも神様は、私たちがいつまでも、この地上に住むような計画をお立てになりませんでした。ただ、この世に生活している間だけです。皆さん、皆さんは今、その生活を始めたばかりですね。でも、あなたたちのおじいさんやおばあさん、そしてひいおじいさんやひいおばあさんは、そろそろ、この地上での生活を終わろうとしています。あなたたちのおじいさんやおばあさんも、少し前までは、あなたたちと同じように小さな子供だったのですよ。でも、そのおじいさんもおばあさんも、いつかこの世からいなくなってしまう。また、あなたたちにも同じことが起こります。

いつの日か、人が年をとったり、病気にかかったり、事故に遭ったりすると、霊と体が別々になります。このときのことを、人が死んだ、と言いますね。死ぬことは、別々になることです。でもこれは皆、ひとつの計画で決められた通り起こっていることなのです。

さっき、私の手をあなたたちの霊、そして手袋を体ということにしましたね。覚えていますか。あなたたちが生きている間、あなたたちの体の中に入っている霊は、体に命令して、働かせたり、動かしたりしています。

でも、私が手袋をはずすと、そう、手袋はあなたたちの体でした。その手袋は、霊から離れてしまいます。もう動くことはできません。手袋は倒れて、そのままです。でも、霊の方はまだ生きています。

「神から生まれた霊は、不死不滅(決して死ぬことがない、ということです)

のものである。肉体が死んでも、霊は死ぬことがない。」(「インブループメント・エラ」大管長会のページ、1912年3月号〔英文〕P.463)

死ぬとはどうなることなのか、よく覚えていて下さい。大切なことです。さっきお話したように、死ぬとは別々になることです。

あなたたちの体のどこから、目を使って外を見ているものがあるでしょう。またあなたたちは体の中の何かから命令を受けて、考えたり、にこにこしたり、遊んだりしています。新しいことを知ったり、生きていることもそうです。こういう働きをしているのがあなたたちの霊なのです。霊は永遠のものです。決して死ぬことはありません。

あなたたちは、だれかが、たとえばおばあさんが死んだときのことを覚えていますか。おとうさんとおかあさんは、きっとこんなふうにお話してくれたことでしょう。「ひつぎの中にあるのは、おばあちゃんの体だけなんだよ。おばあちゃんは、今はもう天のお父様のところへ行って、そこでずっと待っているんだよ。」 きっと、こんなお話を聞いたことでしょう。

死ぬとは、別々になることです。そして、計画に従って起こります。でもその計画が死ぬことで終りになるとしたら、ちょっとひどすぎますね。せっかく地上に来て体をいただいたのに、それがなくなってしまうのですから。

私たちは、天のお父様のおかげで、この地上に来ることができました。そして、天のお父様は、私たちが天のお父様のところへ帰る方法も備えて下さいました。天のお父様は、私たちのお父様です。私たちが天のことを愛して下さっているからです。私たちは天のお父様から遠く離れて、この地上で生活しています。そして、今は天のお父様にお会いできません。でも、だからと言って、天のお父様が私たちのことをお忘れになったわけではありません。

あなたたちのお兄さんが伝道に出て

いたときのことを思い出してみして下さい。また、お姉さんが家を離れて大学で勉強していたときのことを思い出してみして下さい。そのとき、お父さんとお母さんは、どうして愛することをやめなかったのかわかりますか。時々、お父さんとお母さんが、あなたたちよりも、お兄さんやお姉さんの方をずっと愛しているのではないかしら、などと思ったではありませんか。そうではなくとも、お父さんたちは、お兄さんやお姉さんのことをよく話していたことでしょうし、時には、心配することもあることでしょう。遠く離れていても、お父さんたちは、いろいろ気をつけてあげたり、手紙を書いたりして、お兄さんやお姉さんを励ましたことと思います。このように遠く離れば離れるほど愛は強くなるものです。

皆さん、天のお父様は、私たちには助けが必要になることを知っていました。ですからお父様は計画の中で、この地上に来て私たちを助けて下さる方法を準備して下さいました。

この方が、神様の御子、イエス・キリストでした。イエス様も、私たちと同じ霊の子供です。でも、イエス様はこの地上での神様のただひとりの御子でもあります。私はイエス様についてお話するとき、とても敬虔な気持ちになります。とにかく、イエス様のおかげで、私たちは死んでもまた生き返ることができるようになりました。そしてすべての物も、完全な姿形に戻ることができるようになりました。

あなたたちは今、日曜学校や初等協会や家庭の夕べで、イエス様について勉強しています。イエス様のことをいつも忘れず、またイエス様がどんなことをなさったのか、それを一生懸命勉強して下さい。とても大切なことです。

イエス様は、私たちのこの体が一度死んでも、また生き返れるようにして下さいました。イエス様の贖いによって、私たちの霊と体は、またひとつに

なることができます。イエス様のおかげで、私たちは復活するのです。イエス様がいらっしゃったので、私たちは復活できます。そう、霊と体がまた元のように一緒になるのです。これが復活というものです。復活はイエス様からの贈り物です。だれでも皆、この贈り物をいただくことができます。そういうわけで、私たちは、イエス様のことを救い主とか贖い主とかとお呼びするのです。

あなたたちがこの地上に来た2番目の理由は、試されるためです。それはちょうど、学校へ行って、何が良いことで何が悪いことかを勉強するようなものです。私たちは、正しいことと間違っていることをちゃんと区別することができます。これは、とても大切なことです。

また、悪い者がいて、何とかしてあなたたちに悪いことをさせようとしています。このことは覚えていて下さい。大切なことです。私たちが悪いことをしてしまうと、そのためにまた、霊と体が別々になったようなことが起こります。あなたたちはまだ小さいですけれど、このことは忘れないで下さい。いつも考えておかねばならないことです。悪いことをしたときは霊と体が別々になるわけではありません。そうではなくて、私たちの天のお父様から離れるのです。

もし、私たちが天のお父様から離れたままでいて、天のお父様のところへ戻ることができなかつたら、私たちの霊まで死んだようになってしまいます。これは決してよいことではありません。このようにお父様から離れることは、死ぬようなものです。このようになることを、霊が死んだ、と言います。

あなたたちは今、一生懸命読み方の勉強をしていることでしょう。もう、聖典を読めるようになりましたか。聖書、もちろんモルモン経、教義と聖約、高価なる真珠がありますね。この4冊の本を読むと、どんなに小さくても正しいことがわかる、と書いてありま

す。予言者はこのように言いました。

「神は天使によって男ばかりでなく女にも御言葉を伝えたい、そればかりでなく、またたびたび賢人や博学の人の知識も及ばない御言葉を子供に与えたもう。」(アルマ32:23)

聖典を読むと、天のお父様のところへ帰るためには、私たちの霊はきれいではないことがわかります。

「……どんな不潔なものも神の王国に入ることができないのである。…」
(I ニーファイ15:34)

天のお父様のところに帰るには、ふたつの大切なことが起こらなければなりません。そのひとつは、私たちが死んだあと、何とかして私たちの体を元に戻すことです。これは、私たちが復活したいと思っているからですね。第2は、いつも自分をきれいにしておくことです。霊はきれいでなければいけません。霊がきれいだ、と私たちは、天のお父様から離れなくともいいのです。また、私たちが死んで、この世の生活を終えるときに、天のお父様のいらっしゃるところへ帰ることができるのです。

あなたたちは一度死んでも、必ず生き返ります。私たちはそれを信じています。あなたたちは必ず復活します。キリスト様が私たちのために働いて下さったからです。また、一度死んだあなたたちの霊——そう、霊が死ぬということは、私たちの天のお父様のところから離れることでした——その死んだ霊が生き返るかどうかは、あなたたちがどれだけよい子でいるかで決まります。

イエス・キリストが地上にいらっしゃったとき、イエス様は、福音を教え、教会をお創りになりました。もし私たちが福音の教えを守って生活していたら、私たちの霊はいつまでもきれいです。でも私たちは、教えを守らないときがあるかもしれません。そんなときのために、もう一度きれいになる方法があります。これが、悔改めというこ

とです。

イエス様の教会に入るためには、主イエス・キリストを信じる信仰を持たなければなりません。そして、悔改めなければなりませんし、バプテスマを受けなければなりません。

バプテスマは、水の墓の中に沈められるようなものです。水から出ると、生まれ変わったようになります。私たちはきれいになるのです。そのとき、私たちは今までの罪を赦していただきます。罪がなくなるということです。私たちさえ一生懸命教えを守れば、ずっと罪を赦していただいたままでいることができます。

「ただ、あなたたちの骨や肉の体だけが造られたのです。あなたたちはどこか別の所……そう、天のお父様のもとから来たのですね。」

そのあと、私たちは、頭の上に手がおかれて、イエス様の教会の会員になります。イエス様の教会は、末日聖徒イエス・キリスト教会です。そのときに、私たちは聖霊の賜を受けます。聖霊は私たちを導いて下さいます。ちょうど、私たちの天の家から手紙を受けるようなものです。この手紙を読むと私たちはどっちへ行ったらよいかわかります。

主は、教会を導くために、予言者と使徒を召されました。主は、御自分で選ばれた予言者に、いつも御自分の気持をお伝えになります。

ひとつの出来事をお話しましょう。私があなたたちと同じ年の頃の出来事です。6歳か7歳だったと思います。私は、すぐ上のお兄さんと一緒にステーク部大会に歩いて行ったことがあります。今でも、ユタ州のプリガム市にその建物があります。そして、その二階席の真下へ行くと、「あのとき、あの辺にすわっていたんだなあ」と思い出すことができます。

どんな出来事があったと思いますか。その大会で、ひとりの男の人が話

をしました。それは、ジョージ・アルバート・スミス長老です。スミス長老は、そのとき十二使徒でした。スミス長老が、どんな話をしたか覚えていません。知恵の言葉か、悔改めか、バプテスマか何かについてだったと思いますが、よくわかりません。でも、スミス長老が話していたとき、私の心の中に、とても強い気持が起きました。それは今そこに立っているスミス長老は、主のお使いなんだ、という気持です。私は、そのときからずっと今まで、そのときの証や気持を忘れることがありません。私はそのとき心の中に、スミス長老は主イエス・キリストの使徒だということがはっきりわかったのです。

皆さん、私は今ここで十二使徒のひとりとして話しています。でも、ここにいらっしゃる使徒の方たちも、やっぱりイエス様の使徒です。私はその気持を絶対に忘れません。私たち十二使徒は、よく集まって会を開きます。私はそのとき、丸い輪を作って座っている使徒の人たちを見ます。そうするとまた、この人たちは主イエス・キリストの使徒なんだという気持になります。本当にこの人たちは、イエス様について特別の証をする人たちなのです。

あなたたちは、これからいろいろ試されることでしょう。それも、今までのどんな人たちよりもたくさん試されることでしょう。キリストを信じない人たちにもたくさん会うでしょう。悪い者の一味もいるでしょうし、悪いことを教える人もいることでしょう。時には、悪いことをしてみたいという気持になることもあるでしょう。また、何か間違ったことをするときもあるでしょう。私たちはだれでも、何か間違ったことをすることがあると思います。イエス様が教えられた通りに生活しているかどうか、いろいろ考えるときもあるでしょう。でも、何か試されているとき、がっかりしたとき、恥ずかしいとき、悲しいとき、そんなときには、イエス様のことを思い出して、イエス様のお名前によって、天のお父

様に祈って下さい。

イエス様は地上に来られなかった、と言う人があるかもしれません。でもイエス様は本当に来られたのです。イエス様は神様の御子ではない、と言う人があるかもしれません。でも、イエス様は本当に神様の御子なのです。また、地上にはイエス様のお使いはいない、と言う人があるかもしれません。でも、本当にイエス様のお使いはいるのです。それは、イエス様が生きていらっしゃるからです。私は、イエス様が生きていらっしゃることを知っています。イエス様の教会には、イエス様のことを証できる人がたくさんいます。私もイエス様のことを証できます。覚えていて欲しいことをもう一度お話ししましょう。これは小さいうちに知っておいて欲しいことです。

あなたたちひとりびとりが、天のお父様の子供だ、ということを忘れないで下さい。そのように私たちは子供ですから、天のお父様のことを「お父様」と言うのです。

あなたたちは、この地上に来る前にも、生きていました。あなたたちがこの地上に来たのは、骨や肉の体をいただき、そしていろいろ試されるためです。

この世での生活が終わると、あなたたちの霊と体は別々になります。これが、死ぬことです。

私たちの天のお父様は、御子イエス・キリストを送って下さいました。そしてイエス様は、私たちを贖って下さったのです。イエス様のおかげで、私たちは復活するのです。

死ぬことには、もうひとつあります。このことも考えないといけません。これは、私たちの天のお父様のところから離れることです。でも、私たちがバプテスマを受けて、福音の教えを守って生活すれば、私たちは贖われて、天のお父様と離れ離れにならずともよくなります。

私たちの天のお父様は、私たちを愛していらっしゃいます。そして、私た

ちには主がついています。救い主がついているのです。

私は教会のことを神様に感謝しています。この教会では、あなたたちのようなかわいい子供たちを、何よりも大切な宝のように思っているからです。また、救い主のことも神様に感謝しています。救い主は、「幼な子らをそのままにしておきなさい。私のところに来るのをとめてはならない」と言われました。

あなたたちは、ついさっき、このような歌を歌ってくれました。

「世にエスさまのあるときの

お話を読むとき

私もそのときいたなら

よかったと思うよ

エスさまの手が私のあたまに

おかれたら

『子供よ、われに来よ』という

やさしい声を聞くでしょう。」

(子供の歌B-69)

かわいい兄弟、姉妹の皆さん。私は神様が生きていらっしゃることを知っています。イエス様の手があなたたちの頭の上におかれたときの気持が少しわかります。私は、あなたたちをイエス様のお仕事のために召すことがありますから。私は、はっきり証できます。そして、その証をあなたたちに分けてあげたいと思っています。特別に大切な証だからです。イエス様はキリストです。イエス様は私たちを愛していらっしゃいます。私はあなたたち、かわいい子供たちのために心からお祈りしています。かわいい子供たちを見守って下さいますように、そして子供たちにお恵みを与えて下さいますように。イエス・キリストのお名前によってお話ししました。アーメン。

(訳者注：この説教は、1973年4月の総大会において、十二使徒のボイド・K・バックー長老が、子供たちのために行なったものである。子供たちがこの記事を読むことは無理であろうが、両親がバックー長老に代って、子供たちにこの説教を読んで聞かせるなら、子供たちにとってそれほど難しいことではないであろう。)

献身的な教会員に与えられる報い

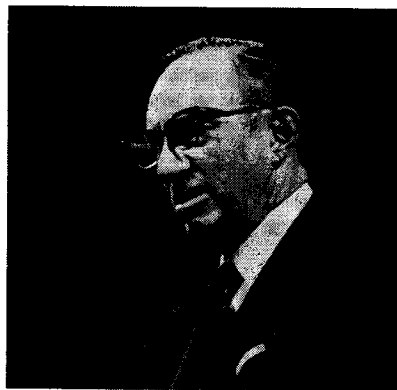
教会の真の強さ

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

この偉大な御業に、共に携っている愛する皆さん。私はこのタバナクルに足を踏み入れるたびに、私たちの先達である開拓者たちが献身と犠牲を払って、この神の家を建設したことを考え、万感胸に迫るものがある。開拓者たちは、このタバナクルを、礼拝の家として、真理を教える家として、神に奉献した。この説教壇に立つときには、信仰を強める言葉を語るようにという、神よりの大きな信頼が私たちにかけられているのである。そのため私は、心からへりくだって、聖きみたまの導きを受けたいと願っている。

私には、世界各地にいる数多くの素晴らしい人々に会う機会が与えられている。そのような人々の中には、私に忘れがたい印象を残してくれた人々もいる。そのひとりに、アジアからやって来た海軍士官がいた。彼は頭脳明晰な青年で、高等訓練のために合衆国へ派遣されていた。そして、合衆国海軍で訓練を受けていた同僚の中に、その行動のために青年の心にぬぐいがたい印象を与えた人々がいた。彼らは青年の求めに応じて、彼らの信じる宗教の教えについて話した。青年はキリスト教徒ではなかったが、非常に興味をそそられた。青年は、世の救い主すなわち、ベツレヘムで生まれ、全人類のた



めに生命をおとされたイエスのことを聞いた。また、永遠の父なる神と復活した主が、少年ジョセフ・スミスの前に御姿を現わされた、という話も聞いた。彼らは更に現代の予言者について話し、主の福音について教えた。みたまは青年の心の琴線に触れ、その結果青年はバプテスマを受けた。

私がその青年の紹介を受けたのは、青年が祖国へ帰る少し前のことであった。私たちは今述べた一連の出来事について話をし、やがて私はこう言った。「あなたの国の人々はキリスト教徒ではありませんね。しかも、かつてお国では、キリスト教徒が随分つらい目に会ったそうです。そんなお国へあなたがキリスト教徒になって帰ったら、どんなことが起こりますか。それも、モルモンというキリスト教徒なんですか

ら。」

その青年は顔を曇らせながら、こう答えた。「私の家族はがっかりするでしょうね。多分、私は勘当されると思います。そして私のことなど全く無視することでしょう。将来や就職のことを考えれば、あらゆる機会の門戸が閉じられたとでも言いましょうか。」

私は尋ねてみた。「あなたは福音のために、そんなに大きな代価を喜んで払うつもりでいるのですか。」

青年は黒いひとみを涙でぬらし、整ったかっ色の顔を涙で光らせながら答えた。「福音は真実です。違いますか。」

私はこのような質問をしたことを心から恥じ、こう答えた。「その通りです。」

青年はこれに答えて言った。「では他に何を心配する必要があるでしょうか。」

私は今朝、これと同じ質問をあなた方にしてみたいと思う。「福音は真実です。では他に何を心配する必要があるでしょうか。」

昨日、進展を続ける教会の統計が発表された。統計は感動的であり、満足すべきものであった。その発表を聞いていて、私は、最近放送されたある有名なテレビ番組のことを思い出していた。その放送では、ジョー・ガラジオ

ーが、合衆国教会評議会のディーン・M・ケリー師にインタビューしていた。ケリー師の話によれば、かなり大きくまた著名な宗教団体の中には、その会員数の衰退が著しいものもあり、また他方、加速度的に発展しているものもあるとのことであった。更にケリー師は、衰退の原因を次のように説明した。「そのような教会は、寛容になっているあまり、だれでも教会員にしたり、名簿にその名をとどめさせようとしています。決して、信仰や寄付を厳格に要求することはありません。」一方ケリー師は、時間や労力や富の犠牲を払うことを要求する団体が大きな発展を遂げていることも指摘した。

ケリー師は更に続けた。「このアメリカ合衆国で百万人以上の会員を有する教会のうち、最も急速な成長を遂げている教会は、ソルトレーク・シティーに本部のあるモルモン教会と言われる、末日聖徒の教会です。モルモン教会は、年々5パーセントずつ成長していますが、これは異常なほど急速な増加です。」

この論評は非常に心を打つものであり、思慮深い人々の関心の的となるものである。その論評にあったことのひとつは、献身を求め、犠牲を払うことを要求し、鍛練を求める宗教は、同時に会員たちの忠実な働きも享受し、他の教会の関心と尊敬の的になる、ということである。

これには、次のようなことがある。イエスがニコデモに次のように言われたとき、何らその言葉にあいまいなところはなかった。「だれでも、水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない。」(ヨハネ3:5)例外はなかった。この戒めを適用するにあたって、何らの寛容も見られなかった。イエスの語られた他のことについても、全く同様である。

パウロにしても、イエス・キリストの福音が要求しているものを述べると

ときには、何ら言葉を濁すことも、あいまいな言葉を使用することもなかった。今日でも同様である。主御自身が「門は狭く、その道は細い」と宣言されたのである。人の行為についてその永遠の行く末に関連している制度は皆、数々の指針を備え、またそれが不変のものでなければならない。そして、人々にある程度の鍛練、とりわけ自己鍛練を期待しないような制度は、人々の忠誠を長く勝ち得ることはできないのである。慰めを得るために支払う代価は

大きいかもしれない。現実には犠牲を払う必要があるかもしれない。しかし、このように現実要求するものがあるこそ、人格が形成され、精神的強さや高潔さも生み出されるのである。

寛容であっては、決して偉大になることはない。高潔、忠誠、強さなどという諸徳の原動力は、いと高き所から語られた真理の要求に従って自己鍛練をするとき、その人の心の中で起こる種々の葛藤を通じて形成されるものである。

アジア出身のその海軍士官は、黒いひとみを涙でぬらし、整ったかっ色の顔を涙で光らせながら、答えた。「福音は真実です。違いますか。」



しかし、物事にはもうひとつの面がある。これなくしては、自己鍛練もただの訓練と何ら変わらなくなってしまう。ただ単に、鍛練のためにする鍛練は、抑圧的なものでしかない。イエス・キリストの福音の精神とは調和しないものである。そのような鍛練は普通、恐怖に強いられるものであり、その結果は極めて否定的である。

しかし一方、積極的で、個人の確信から出た鍛練は、驚くほど人格を育成し、高め、強める。宗教に関して言えば、人が偉大で力強い真理の確信に基づいて行動するときには、自分から進んで鍛練するものである。しかも、教会がそのように要求するからというのではなく、心の中に確信があるからするのである。その確信とは、神が生きてましますこと、自分が神の子供であり、永遠で無限の可能性を持っていること、奉仕には喜びがあり、偉大な目的のために働くことには満足があること、などである。

この教会の著しい発展の原因は、ケリー師が指摘しているように、教会が会員に課している種々の要求の結果ではなく、教会員の心の中にある確信の結果なのである。この教会の会員たちは、この業が本当に神の御業であることを、また義しい奉仕のうちにこそ、平安と満足が見いだせることを確信している。

きょう私たちは、テンプル・スクエアにあるこの歴史的なタバナクルに集まっている。周囲には数多くの著名な建物もある。しかし、教会の持つ強さは、これらの建物の中にあるのではなく、全世界に及ぶ何千という礼拝の家にあるのでもない。ましてや、教会の経営する大学や病院にあるのでもない。これらのものは皆、大切な施設であり、ある目的のための望ましい手段ではある。しかしなお、真の強さの源泉に比べたら補助的なものでしかない。昨日、リー大管長が言明したよう

に、この教会の強さは、教会員の心の中にある。この御業が真実であるとのひとりびとりの証と確信の中にあるのである。もしひとりびとりがその証を持つならば、教会の出す要求は、重荷ではなく、むしろチャレンジと感じられることであろう。救い主は、はっきりと述べておられる。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(マタイ11:30)

教会の責任というくびきと、教会を指導するという荷は、イエス・キリストの教会の献身的な会員に数えられる者にとっては、問題となるよりは、むしろ良い機会となることであろう。

先日、合衆国東部で大会に参加していた際、数カ月前に教会に加入したばかりの技師の経験を聞く機会があった。彼の話はこうである。宣教師たちが彼の家を訪問し、彼の妻が宣教師を中に招き入れた。彼の妻は宣教師の話に熱心に耳を傾けたが、彼の方はまるで自分の意に反して強制的に聞かされているような思いであった。ある晩、彼女はバプテスマを受けたいと願い出た。彼は怒り心頭に達する思いであった。一体、妻はバプテスマを受けることがどんなことなのか知っているのか。バプテスマを受ければ、時間がなくなるし、什分の一も納めなければならないんだ。友人たちとのつき合いもやめなければならないし、もうたばこもすえなくなる。彼はコートを急いで着ると、ドアをパターンと閉めて、夜のとばりの中を歩き出した。彼は通りを歩きながら、妻をののしり、宣教師をののしり、更には、宣教師を招き入れて教えることを許した自分自身をものしった。やがて疲れて、怒りも徐々に鎮まると、どういうわけか祈りたい気持ちが心の中にこみ上げて来た。そこで彼は歩きながら祈った。自分の疑問に答えてくれるようにと神に嘆願したのである。するとはっきりと、何らあいまいなところのない感じがわき上がって来

た。まるで「福音は真実である」と告げる声が聞こえるようであった。

「福音は真実だ。」彼は何度も何度も自分にそう言い聞かせた。「福音は真実だ。」安らかな気持が彼の心の中にこみ上げて来た。家に向かって歩いて行くと、今まで何としても怒りの種であった種々の制約や要求や条件が、今度は数々の機会が与えられたように思えてくるのであった。そして、家に着いてドアを開けると、彼が見たものは、妻がひざまずいて祈っている姿であった。

ここまで話し終えたと、彼は会衆に向かって、彼ら夫婦に訪れた喜びがいかに大きいものかということ話を話した。もはや什分の一は問題ではなかった。何もかも与えて下さった神に、その幾分かをお返しすることは、ほとんど問題にならなかった。奉仕のために使う時間も問題ではなかった。ただ毎週、時間の使い方の配分をもう少し注意すればいいだけであった。責任を受けることも問題ではなかった。責任によって成長できたし、人生を新しい観点から見ることでもできたからである。理性と教養に富むこの技師は、普段は私たちの住むこの物質界の事象に接していたのであるが、このときには、自分の生活にもたらされた奇跡について、目に一杯涙を浮かべながらおごそかに証を述べた。

これは、数多くの国々に住む何千何万という会員にとっても同じである。才能と教養に富んだ人々、営業関係の人、知的職業に携わる人、この世の仕事をするにあたって事務的で実利的な人。様々な種類の人々がいるが、その心の中には皆、静かな証が燃えている。神が生きておられ、イエスがキリストであり、この業は神の御業であり、そしてこの御業は、そこで働く機会にあずかりたいと願うすべての人々の祝福のために地上に回復されたのである、という証が燃えているのである。

主は言われた。「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。」(黙示録3:20)

また、イエスは、神殿の中でユダヤ人に次のように言われた。「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」(ヨハネ7:16, 17)

これこそ、あらゆる人々が自分自身で知ることができる、この業の奇跡である。教師や説教師や宣教師から証を得るのではない。これらの人々はただ教え、証を述べるだけである。かつてヨブは言った。「……人のうちには霊があり、全能者の息が人に悟りを与える。」(ヨブ32:8)

人はだれでも、自分自身で、聖きみたまの賜によってこの業が真実であることがわかり、しかも、太陽が朝東から昇るようにはっきりと確信できるのである。そして、この業が真実であるとの証を得るや、自らの鍛練を始めるようになる。さらに、人生の意義と目的を知り、同胞に対する大きな責任を知り、自分の家族に対する責任を知り、そして、神に対する責任をも知るのである。

主は言われた。「われに就きて学び、わが言を聴き、わが『みたま』の柔和なる道を歩め。さらば、汝われに在りて安きを得ん。」(教義と聖約19:23)

これは、「人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安」である。この平安は、心の思いから来るのではなく、みたまによってもたらされる。そして、「神のことは、神の『みたま』によって理解できる」のである。

聡明で、高い教育を受けたひとりの

若い女性が、ドイツのベルクテスガーデンで開かれた、駐留米軍の軍人会員の大会で話をしてくれたことがある。この大会には私も同席していて、彼女の話を書く機会があった。彼女は、軍隊の中でも幹部に属する医師であり、その分野では非常に高く評価されている専門家であった。彼女は、次のように話してくれた。

「私は、世の何物にもまさって、神に仕えたいと思っていました。しかし私なりに一生懸命努めたつもりでしたが、神を見つけ出すことができませんでした。でも奇跡が起きたのです。神が私を見つけてくださったのです。1969年9月のある土曜日の午後のことです。私がカリフォルニア州パークレーの家にいると、ドアのベルが鳴りました。出て見ると、スーツとワイシャツとネクタイに身を包んだふたりの青年が立っていました。髪の手入れも行き届いていました。私はこのふたりの青年に強い印象を受け、こう言いました。『何を売りにいらしたのかわかりませんが、とにかく買いますわ。』すると、ひとりが答えました。『私たちはセールスマンではありません。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師です。私たちはあなたとお話したいのです。』私はふたりを招き入れると、彼らの信仰についての話に耳を傾けました。

これが私の証の始まりでした。私は自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である特権と名誉に、言葉では言い尽くせない感謝の気持ちを持っています。この喜びの福音が私の心にもたらしてくれた喜びと平安は、まるで地上の天国とでも言えるようなものです。この御業に関する私の証は、私の人生で最も貴いものであり、また私の天父から贈られた賜なのです。私は、このことに永遠に感謝し続けることでしょう。」

この知識は、古代におけると同様に今日も与えられている。私の友人であ

る、あのアジア出身の海軍士官にも同様に与えられた。また、あの技師にも同様に与えられた。彼の話はすでに引用した。また、今話したこの医師も同様である。彼女の証もお話した。だが、このタバナクルの中には、同じ様な証を述べる人々が何千人といる。また、世界には何百万人もいる。もし私の話を聞いている人の中で、これらのことを証する聖きみたまの導きを求めている人がおられるなら、その証が与えられるよう、私自身の証を述べたいと思う。この証は、昔ペテロに与えられたと同様の方法で、今日も与えられるのである。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『……あなたがたはわたしをだれと言うか。』

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』

すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。

そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。』(マタイ16:13-18)

この啓示の岩こそ、神のことに關する知識の源である。永遠の真理について証するのは、聖きみたまの証であり、この証を求め、受け入れ、強め、そしてその証に従って生きる人々には、黄泉の力も打ち勝つことはできないのである。

これら神聖なことを私は厳粛に証する。また、この知識が熱心に真理を求める人々にすべからく与えられるよう、祝福を乞い願うものである。真理の源なる主イエス・キリストの御名により申し上げる。アーメン。

ハロルド・ビンガム・リー大管長逝去

末日聖徒イエス・キリスト教会第11代大管長ハロルド・B・リー長老は、去る12月26日（水曜日）午後8時58分逝去された。74歳。

心不全と肺臓疾患による突然の死であった。リー大管長はクリスマスの日を自宅で迎え、息女宅にも足を向けられた。翌日（26日）いつになく長い睡眠の後で体の不調を訴えられた大管長は、心電図測定などの精密検査を受けるため午後3時頃に末日聖徒病院（L. D. S. Hospital）に入院。病院では同行したリー姉妹と夕食を共にされ、元気を取り戻したかに見えたが、午後8時頃危篤状態に陥り、家族、友人が呼ばれた。そして間もなく逝去された。臨終の場に立ち会ったのは夫人、息女夫婦、孫娘のほか、マリオン・G・ロムニー第二副管長、スペンサー・W・キンボール十二使徒評議員会会長、それにリー大管長の秘書のD・アーサー・ヘイコックである。第一副管長のタナー長老はアリゾナ州フェニックスでこの訃報に接した。

リー大管長は1899年3月28日、アイダホ州クリフトンで生まれた。1930年、31歳でソルトレーク・シチーにあるパイオニアステーク部のステーク部長に、また1937年にはヒーバー・J・グラント大管長により教会福祉プログラムの部長に召された。1941年4月10日、同じグラント大管長により使徒に聖任され、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長のときにはその第一副管長として働いた。そしてスミス大管長の死去に伴い、1972年7月7日、末日聖徒イエス・キリスト教会大管長として任命されたのであった。18カ月足らずという在職期間は、歴代大管長の中で最も短く、また他界の年齢も初代のジョセフ・スミスを除いては最も若い。



第11代大管長 ハロルド・B・リー

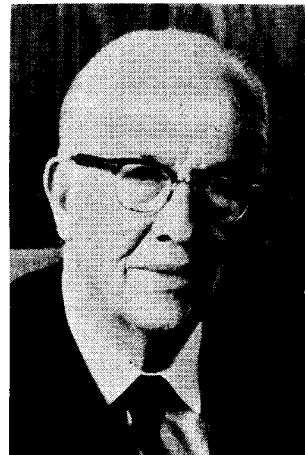
新たにキンボール長老、第12代大管長に聖任される

12月30日（日曜日）、十二使徒定員会はソルトレーク神殿に一同が会し、スペンサー・W・キンボール会長を第12代大管長に聖任し、任命した。キンボール大管長は、第一副管長としてN・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを選任した。

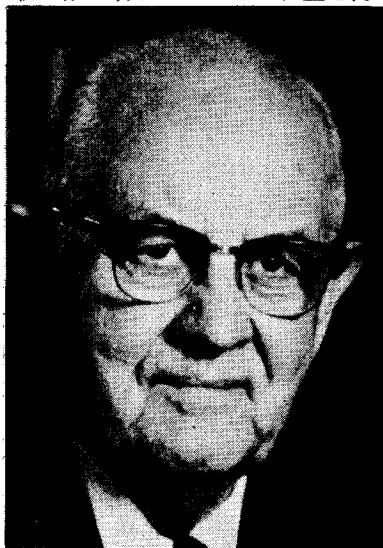
新たに召されたキンボール大管長は1895年3月28日、ユタ州ソルトレーク・シチーの生まれ。祖父のヒーバー・C・キンボールはこの神権時代の最初の十二使徒評議員として名を連らね、後にブリガム・ヤングのもとで大管長会の一員として働いた人である。スペンサー・W・キンボール大管長は教会において、ステーク部長を初め数え切れないほどの経歴を持つ人である。使徒に聖任されたのは1943年10月7日、そしてハロルド・B・リーが大管長に召された1972年7月7日に十二使徒定員会会長に任命された。

新たに十二使徒定員会会長として召されたのはエズラ・タフト・ベンソン長老である。1899年8月4日、アイダホ州ホイットニーで生まれたベンソン長老は、曾祖父エズラ・T・ベンソンの名を取って名づけられた。エズラ・T・ベンソンは、出ノヴーの後のウインタークォーターズ時代に十二使徒評議員会会員に召された人である。ベンソン新会長が使徒に聖任されたのは1943年10

月7日である。アイゼンハワー大統領時代の農務長官として活躍したことも有名である。



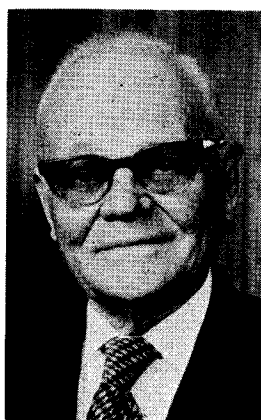
エズラ・タフト・ベンソン
十二使徒定員会会長



スペンサー・W・キンボール
大管長



N・エルドン・タナー
第一副管長



マリオン・G・ロムニー
第二副管長

汝らは世の光なり。……斯のごとく汝の光を人の前にかがやかせ。

耳の不自由な兄弟姉妹と共に手話を通して主の御言葉を語り合うその姿は、正に、世の光であります。

福音を手話に 託して

津野尾 清子

福岡支部

私が初めて手話に接したのは1971年の秋、沖縄で伝道しているときでした。手話を通して福音を伝える機会に接した場合の備えとして同僚と片手間に勉強を始めました。しかし必要に迫られていない状態でこの気持を持続させることは困難でした。2週間、3週間と経つうちに私たちは全然練習をしなくなり、遂にはその志さえ忘れてしまいました。

翌年4月3日那覇支部から福岡支部に転任となり、初めて聾啞の兄弟姉妹について知りました。このときほど沖縄での経験を悔やんだことはありません。福音を説くためには、是非とも手話が必要です。でも私は手話も指文字も全然できない状態だったのです。全くの白紙状態から始めなければならず、私にとって彼等に福音を宣べ伝えることは不可能の様に思われました。

「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。……」（教義と聖約82：10）

私は宣教師として教える責任があり、その為に神様から召されたのです。私がこの業を為すときに必ず神様の導きがあることを主は約束されました。まず筆談でレッスンを始めました。レッスンをしながら必要な単語を一つ一つ覚えて行き、覚えたものをノートに書き込み、忘れない様にいつも反復練習しました。私自身何となくこの完全な福音を伝えたいという強い気持があったことは事実ですが、それにも増して兄弟姉妹たちの励ましの言葉に勇気づけられて頑張ることができました。

私の宣教師の召しの按手任命の祝福の言葉の中に「福音を聞くことを待ち望んでいる多くの人々がいます。あなたから福音を聞くべく待ちこがれている人々……これらの人々はあなたの声とあなたの証だけを聞くでしょう」という言葉があります。私はこの人々のためにこの地に召された様な気がしました。不完全な手話でどこまで正確にこのメッセージを伝えられるだろうか、心からの証を伝えたとしても彼らがどの程度理解してくれるだろうか。不安はいつもありました。しかし彼らの素直な信仰と祈りはこの真理を受け入れました。心の清い謙遜な聾啞の兄弟姉妹にはいつも聖霊の導きがあり、心の耳でよく聞き、理解できたのだと思います。改宗した人が他の聾啞者を紹介し、次々と改宗者が増えて行きました。主の助けと聾

啞の会員の助け、同僚の援助なくして、手話を覚えることも、この福音を宣べ伝えることもできなかったと思います。

伝道を終えて帰郷した後も、何度か聾啞の姉妹から手紙をいただきました。両親のもとで何不自由なく暮らしておりましたが、いつも福岡の聾啞の人たちのことが頭にありました。そんな私にとって大きな転機となつたのはキンボール長老の大会でした。その日キンボール長老は「証のために、また信仰のためにあなたの最も貴重である命を捨てることができますか」と言われました。心の中で「はい！」と答えましたが、このとき聾啞の兄弟姉妹の顔が私の脳裏をかすめました。同時にリー大管長の言葉が思い出されました。「使徒行伝3章にペテロが美しの門の所であしなえを癒された話があります。……ペテロは彼の手を取り、足とくるぶしが強くなるまで彼を支え共に歩いたはずです。共に歩くことが大切です。私たちにとって『悔い改めなさい』ということは簡単です。しかし大切なことはその人が本当に悔い改めることができるまで導いてあげることです。……」私は、伝道中聾啞の人々と共に歩んでいると思つていましたが、実際はまだ歩いていなかったことに気づいたのです。福岡へ戻らなければいけないと強く感じました。福岡に行くことが本当に神様のみこころかどうかを知るために断食し祈り、そして聖霊を通して神様のみこころを知ることができました。両親の許可を得、渡辺伝道部長にその旨をお伝えし、福岡に戻ることになりました。

通訳の際話し手の言わんとすることを正確に伝えることが必要です。いつも心の中で正しく通訳できる様に祈っていますが、この様に祈る喜びと謙遜になる機会、祝福をいただいておりますことを心から感謝しています。

神殿から帰った9月の第三日曜日、聖餐会で15分間話をする責任をいただきました。神殿の意義、目的、神殿内の儀式、神殿訪問によって得た証を述べたいと思いましたが、口と手の両方で話すことは私にとって非常にむずかしいことでした。土曜日までに話の構想をまとめ、みたまによって異言を語る賜を与えて下さる様に断食して主に祈りました。日曜日、緊張して聖壇に立ちました。そこで不思議なことが起こりました。私は普通の言葉で話しながら、その言葉通りに手も動いているのです。聾啞の兄弟姉妹ははっきりと私の言葉がわかりました。主は祈りに応え、異言を語る賜を下されたのです。なぜなら、私は自分自身で口で話しながら同時に頭で簡単な言葉に置き換えて手真似をするほど器用ではないからです。主が生きてましまし、必要に応じて求める物を与えて下さること、またすべての人が神の子であり、求める人にはいかなる方法を用いても真理を知らしめるというさらに強い証を得ることができました。

もうひとつ神様からすばらしい祝福をいただきました。地方部宣教師の召しです。現在ひとりの聾啞の姉妹と共に勉強しています。彼女は普通の小学校に入学したために2年で中退し、その後教育を受ける機会に恵まれませんでした。ですから手話もあまり知りませんし、筆談もむずかしい状態でした。私たちはまず神様との唯一の交通機関である祈りについて教えました。何回も何回も根気よく教えました。初めの内彼女は私の手話が全然理解できませんでした。手話をひとつひとつ教え、やっと意志の疎通ができる様になり、祈りを教えるに至りました。長い間彼女は祈ることができませんでした。1カ月半後、私たちは彼女自身で祈ることの大切さをわかってもらいたいと思って閉会の祈りをチャレンジしました。「天のお父様」長い沈黙が続きました。彼女は助けを求めて、私の顔を見まし

た。「できます。神様が助けます。」そのように告げ、目で励ましました。同僚も私も心の中で一心に祈っていました。彼女は苦しうに顔を歪めていましたが、震える手で「今日勉強できましたことを感謝します。よくわかる様に助けて下さい。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。」と祈りました。初めて彼女自身で、他人の助けを借りずに祈ることができたのです。私たちは本当に神様に感謝しました。神様が彼女を助けて下さいました。今、彼女はよくお祈りをします。その上今まで自分の意見を言わなかった彼女が「よくわからないけれど、段々にわかって来ると思います」とまで言う様になりました。主の御手が彼女と共にあります。

私は心から証致します。人が真理を求めるとき、それを拒む力はどこにもなく、その人の熱心さと従順の度合に応じて主がこたえたもうことを。私は聖霊によって、主がまさに生き給い、御自ら予言者に啓示を与え統治なさるこの末日聖徒イエス・キリスト教会が世界で唯一の真の生ける神の教会であることを証致します。スペンサー・W・キンボール大管長が主より召された生ける予言者であり、予言者の言葉に聞き従うときに主のみこころを行なっていると証致します。標準聖典が確かに神の御言葉であることを証致します。私たちは神の子供であり、主がすべての人々を愛し導きたもうことを、へりくだってイエス・キリストの御名により証致します。



日曜学校

植木 けい子

横浜第2ワード部

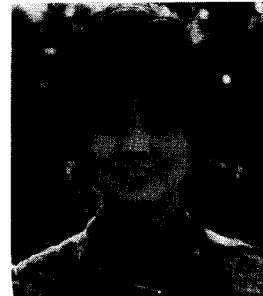
私は日曜学校の耳の聞こえないクラスで「福音の紹介」のテキストを使って勉強しています。教師は斎藤淳姉妹、とても素晴らしい先生です。耳の聞こえない生徒に、教義や聖典をわかりやすく、そして細かく教えてください。ほとんど手話ですが、黒板にも書きます。在籍している生徒は、私を初め金子君代姉妹、小西和夫兄弟で、共に聴覚障害者です。いつも出席できる生徒はひとりふたりで少ないけれども、勉強のしかたについて話したいと思います。初めに先週勉強したことの復習、それが終わると本の朗読、それから読んだところの意味を細かく、またはまとめてわかりやすく説明してもらいます。また、たとえ話を話してもらったり、黒板に書いてあることをレポートに書き移したりします。そして家へ帰ってから、日曜学校のノートに書き移して勉強します。いつも苦労して教えてください。本当に感謝しています。私たちも自分でよく聖典を調べ、先生に発表することができるよう、またお互いに福音を話し合うことができるように努力していきたいと思っています。この教会の兄弟姉妹がよく勉強していらっしゃるのを見ると励みになります。

先週の日曜日、帰る電車の中で、目の前の窓の外に青いバツタがくっついているのに気づきました。電車が走っているのに飛ばされず、また反対方向からの電車とすれちがったときの強い風にもじっと窓にしがみついているのはなれないのを見て感動しました。

私はこのバツタと同じ様に、いつも神様の僕としてこの教会から

離れず、聖典を読み、よくお祈りし、永遠に神様に従って日の榮に入りたいと思いました。もっと知識を得ることができるように頑張りたいと思っています。

このすべてを御子イエス・キリストの御名によりお話ししました。アーメン。



手話クラスの 教師に召されて

斎藤 淳

横浜第2ワード部

横浜第2ワード部が設立されて間もなく、遠藤監督より31コース（特別クラス）の教師になるように言われたとき、それだけの準備ができていたかどうか少し不安でしたが、私たち3人姉妹は聾啞者の両親のもとに生まれ育って手話を自由に話すことができますのでこの本当に素晴らしい教師という祝福を私に下さったのだと思い感謝しております。

皆さんは聾啞者と呼ばれる人々について御存知でしょうか。道を歩いていて、あるいは電車の中で、身振り手振りで会話をしている人を見かけたことがあると思います。そうです、彼らは生まれ落ちたときから、また幼くして病にかかり、あらゆる音声と全く断絶された生活を余儀なくされた世界に住む人々のことです。

私が受け持った1コースの生徒さんたちはそのような方々ですが、それはすばらしい感受性を持った方々とも言えます。音がありませんので、私の一挙一動を食い入るように見つめ、福音についても熱心に質問します。私が準備不足だった日の授業は、彼らの目を見ると優しく笑ってはいますが、その奥に神の目を見るような気がしてなりません。今までも、きょうはとても良くできそうもないから休んでしまおうと思ったことが何度もありましたが、日曜学校に楽しそうに集っておられる姿を思い出すと、神様の助けがあって、良く授業を行なうことができますようにと思わず祈ってしまいました。

何年前かに祝福師の渡部兄弟に、あなたたち3人姉妹の手話という特技は、神がどのような人々にも福音を分け与えなさいと言われたそのひとつの道であると言って下さいました。今、その言葉が全くその通りに行なわれているのを見ると、私の責任の重大さをひしひしと感じ、自分自身の証をもっと強められるように、与えられたさまざまな責任を良く果たさなければと念じております。

私の今の願いは、このやっと開きかけた門をさらに大きく開き、31コース（特別クラス）の教室が一杯になることです。東京ステークス部大会で聾啞者専門の通訳者として一番下の妹の夫である田中請也兄弟が召され、最前列で手話を駆使しているのを見、目頭が熱くなるのを覚えました。

神様がいかなるハンディを持った人々にもこの様に祝福された道を示して下さい、そのために私たちが少しでも助けとなり、尚一層末日聖徒として生きる喜びを与えて下さいましたことを心から感謝しております。

すべてイエス・キリスト様の御名により証します。アーメン。

